

# 平成17年度 私費外国人留学生生活実態調査

## 概 要

平成18年8月

独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)

## はじめに

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)は、文部科学省との緊密な連携の下に、学生支援を先導する中核機関として、奨学金貸与事業や留学生支援事業及び学生生活支援事業を総合的に実施し、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材を育成するとともに、国際理解・交流の推進を図ることを目指しています。

現在、我が国で学んでいる留学生数は、平成17年5月現在、121,812人であり、そのうち、私費外国人留学生数は、110,018人(90.3%)となっています(JASSO 調べ)。

本機構では、平成17年11月に、我が国の大学(短期大学を含む)、大学院及び専修学校(専門課程)に在籍する私費外国人留学生(5,500人)を対象に生活実態調査を実施しました。結果の概要は次のとおりです。

## 目 次

「平成17年度私費外国人留学生生活実態調査」結果の概要 .....	1
I. 調査の目的と方法 .....	3
1. 調査目的 .....	3
2. 調査対象 .....	3
3. 調査方法 .....	3
4. 調査対象人数 .....	3
5. 調査実施時期 .....	3
II. 調査結果の内容 .....	4
1. アンケート回答状況 .....	4
2. 日本留学前の状況 .....	6
3. 在日・在学年数及び入学前の活動 .....	7
4. 留学後の日本への印象等 .....	9
5. 収入 .....	11
6. 奨学金 .....	13
7. 支出 .....	15
8. アルバイト .....	17
9. 授業時間を除く学習・研究時間 .....	21
10. 宿舎 .....	25
11. 授業料等の保証人 .....	30
12. 健康 .....	31
13. 卒業後の進路希望等 .....	34
参考資料	
平成17年度私費外国人留学生生活実態調査 調査票 .....	37

# 「平成17年度私費外国人留学生生活実態調査」結果の概要

## 1. アンケート回答状況

私費外国人留学生の中から無作為抽出により、5,500人に対してアンケートを送付し、4,155人から有効回答を得た。回答率は75.5%であった。

## 2. 日本留学前の状況

- (1) 日本を留学先として選んだ理由は、「日本語・日本文化を勉強したかった」(49.9%)が最も多い回答であった。
- (2) 留学するまで特に苦労したことは「日本語学習」(56.7%)が最も多い回答であった。
- (3) 留学情報の入手方法では「インターネットを利用して学校や日本学生支援機構(JASSO)のホームページを検索して」(30.9%)が最も多い回答であった。

## 3. 在日・在学年数及び入学前の活動

在日年数が4年未満の者は2,891人と全体の約7割(69.6%)を占めている。また、来日後、現在在籍している大学等へ直接入学した者は799人で、全体の19.3%である。なお、現在の学校に直接入学しなかった者(3,256人)のうち、現在在籍する学校の直前に日本語学校に在学していたと回答した者が約6割の1,863人(57.2%)である。

## 4. 留学後の日本への印象等

- (1) 日本に対する印象が「良くなった」の回答が62.8%であった。
- (2) 日本人に対する印象が「良くなった」の回答が58.9%であった。
- (3) 日年へ留学して、全体として「良かった」の回答が84.6%であった。
- (4) 日本に留学して苦労したことは「物価が高い」(74.8%)が最も多い回答であった。

## 5. 収入

- (1) 収入の平均月額額は、136,000円である。
- (2) 収入は、主に「アルバイト」及び「親・兄弟、又は親戚からの仕送り」となっている。
- (3) 居住地域別の収入の平均月額額は、東京(154,000円)を中心とした関東地方が150,000円と全国で最も多く、四国、九州地方が110,000円と最も少ない。

## 6. 奨学金

- (1) 全体の約4割(44.7%)の者が何らかの奨学金を受けている。
- (2) 在籍段階別の奨学金受給率は、高い順に「大学院博士課程」、「大学院修士課程」、「短期大学正規課程」、「学部正規課程」となっている。
- (3) 学習奨励費の給付に対する要望は「支給期間を1年間から延ばしてほしい」(59.1%)が最も多い。
- (4) 学習奨励費を受けて良かったことは「日常生活に不安がなくなり、勉強に集中できた」(89.3%)が最も多い回答であった。

## 7. 支出

- (1) 支出の平均月額額は、136,000円である。
- (2) 支出のうち「学習研究費」が一番多く、次いで「住居費」、「食費」の順になっている。
- (3) 最も支出が高いのは民間のアパートやマンションに住む専修学校生であり、平均月額額は153,000円である。最も低いのは、国立大学に通い大学の寮で生活をする学生で、平均月額額は93,000円である。

## 8. アルバイト

- (1) 全体の8割(84.4%)が何らかのアルバイトに従事している。
- (2) 職種は、軽労働の「飲食業」が1,929人で全体の半数以上(55.0%)を占めている。
- (3) 従事時間は週平均「20時間～25時間未満」が1,120人(31.9%)と一番多く、次いで「15～20時間未満」が839人(23.9%)となっている。

## 9. 授業時間を除く学習・研究時間

- (1) 在籍段階別にみると、「大学院博士課程」では、186人(57.1%)が週当たり35時間以上勉強していると回答しているが、「学部正規課程」、「短期大学正規課程」、「専修学校専門課程」在籍者の8割は学習時間が週28時間未満であり、週7時間以上21時間未満に集中している。
- (2) 「農学」分野の学生の5割以上(54.5%)、「医・歯学」の学生の7割以上(74.6%)は、週当たり28時間以上を学習時間にあてている一方で、「人文科学」、「社会科学」、「教育」などの分野で最も回答が多かったのは、「週7時間から14時間未満」であった。

## 10. 宿舍

- (1) 住居の形態は、「民間アパート・マンション等」に居住する者が、3,082人(74.2%)と最も多い。
- (2) 一人当たりの専有面積では、10㎡(約6畳)未満の者が全体の約7割(68.0%)を占める。また、7割以上の者が、個別のキッチン、バス・シャワー、トイレ付きの部屋に居住している。
- (3) 単身、同居別では、単身(51.1%)の方が多かった。また、同居のうち「3人で生活」は853人(42.2%)、「2人で生活」は839人(41.6%)である。同居人の種類では、「外国人留学生」が1,120人(55.5%)と最も多い回答であった。
- (4) 住居費の全国平均月額額は31,000円で、関東地方が36,000円で最も高い。
- (5) 宿舍の保証人がいると回答した者は、約7割(71.6%)の2,974人となっている。また、保証人は、「日本人の知人」が1,148人(38.6%)と最も多い回答であった。

## 11. 授業料等の保証人

授業料等の保証人を「求められた」と回答した者は約6割(61.9%)の2,571人となっている。また、保証人は、「親族」が1,270人(49.4%)と最も多い回答であった。

## 12. 健康

- (1) 健康保険に加入している者は全体の約9割(93.3%)の3,876人となっている。
- (2) 健康保険加入者の中では、日本の国民健康保険に加入している者は3,697人(95.4%)になる。
- (3) 健康保険未加入者262人のうち、未加入理由は「保険料が高すぎる」と回答した者が140人(53.4%)で最も多い。

## 13. 卒業後の進路希望等

- (1) 卒業後の予定は、「日本において就職する」ことを希望した者が2,338人(56.3%)で最も多く、次いで「日本において進学」が2,242人(54.0%)となっている。
- (2) 「日本において就職希望」と回答した者の就職希望分野は、「海外業務」が1,170人(50.0%)で最も多く、次いで、「貿易業務」1,116人(47.7%)、「翻訳・通訳業務」892人(38.2%)となっている。
- (3) 就職活動時の要望は「留学生を対象とした就職に関する情報の充実」が1,657人(70.9%)で、最も多く、次いで、「企業においてもっと留学生を対象とした就職説明会を開催してほしい」が1,087人(46.5%)となっている。

# I. 調査の目的と方法

## 1. 調査目的

この調査は、我が国で学ぶ私費外国人留学生の標準的な生活の状況を把握し、経済的な実状等を明らかにし、独立行政法人日本学生支援機構が実施する外国人留学生に対する各種の支援事業の改善、充実に資するための基礎資料を得ることを目的として行った。

## 2. 調査対象

我が国の大学（短期大学を含む）、大学院及び専修学校（専門課程）（以下、「大学等」という。）に在籍する私費外国人留学生で、我が国の出入国管理及び難民認定法の別表第1に定める「留学」の在留資格を有する者（国費外国人留学生制度実施要項に定める国費外国人留学生及び外国政府が派遣する政府派遣留学生を除く）を対象とした。

## 3. 調査方法

全国の国公立大学等の協力を得て、協力校に在籍する私費外国人留学生の中から無作為抽出を行い、所定の調査票（無記名）を送付し、回収した。

なお、協力校の選定にあたっては、国公立大学等別の留学生在籍率及び地域分布等を考慮した。

## 4. 調査対象人数

5,500人（国立大学 61校 967人、公立大学 22校 129人、私立大学 89校 2,961人、短期大学 39校 193人、専修学校 60校 1,250人）

## 5. 調査実施時期

平成17年11月

## II. 調査結果の内容

### 1. アンケート回答状況

私費外国人留学生 5,500 人にアンケートを送付し、有効回答を 4,155 人から得た（有効回答回収率 75.5%）。

回答者の在籍学校別の内訳（第 1-1 表）は、国立大学が 774 人（18.6%）、公立大学が 91 人（2.2%）、私立大学が 2,275 人（54.8%）、短期大学が 153 人（3.7%）、専修学校が 840 人（20.2%）であった。

在籍段階別の回答者数（第 1-2 表）は、回答者の多い順に、「学部正規課程」が 2,184 人（52.6%）、「専修学校専門課程」が 840 人（20.2%）、「大学院修士課程」が 581 人（14.0%）、「大学院博士課程」が 326 人（7.8%）、「短期大学正規課程」が 153 人（3.7%）、「大学院レベルの研究生」が 35 人（0.8%）、「学部レベルの研究生・聴講生」が 20 人（0.5%）と続いている。

専攻分野別の回答者数（第 1-3 表）は、同様に、「社会科学」が 1,646 人（39.6%）、「その他」が 869 人（20.9%）、「人文科学」が 644 人（15.5%）、「工学」が 469 人（11.3%）と続いている。

第 1-1 表 回答者の在籍学校別内訳

	大学				短期大学	専修学校	不明	計
	国立	公立	私立	大学計				
調査数	967	129	2,961	4,057	193	1,250	-	5,500
人数(人)	774	91	2,275	3,140	153	840	22	4,155
率(%)	18.6	2.2	54.8	75.6	3.7	20.2	0.5	100.0
回収率(%)	80.0	70.5	76.8	77.4	79.3	67.2	-	75.5

（注）回収率は、在籍学校別の有効回答回収率を示す。

第 1-2 表 在籍段階別の回答者数

区分	大学院博士課程	大学院修士課程	大学院レベルの研究生	学部正規課程	学部レベルの研究生・聴講生	短期大学正規課程	専修学校専門課程	その他・不明	計
人数(人)	326	581	35	2,184	20	153	840	16	4,155
率(%)	7.8	14.0	0.8	52.6	0.5	3.7	20.2	0.4	100

（注）その他は、別科、専攻科に在籍するものを示す。

第 1-3 表 専攻分野別の回答者数

区分	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	家政	教育	その他	不明	計
人数(人)	644	1,646	113	469	77	67	15	26	191	869	38	4,155
率(%)	15.5	39.6	2.7	11.3	1.9	1.6	0.4	0.6	4.6	20.9	0.9	100.0

出身国・地域別の回答者数（第 1-4 表、5 ページ）は、「中国」が最も多く 3,131 人（75.4%）、以下、「韓国」が 422 人（10.2%）、「台湾」が 175 人（4.2%）、「ベトナム」が 59 人（1.4%）、「マレーシア」が 52 人（1.3%）と続いております、アジア出身者が全回答者数の 98.3%を占めている。

回答者が母語として日常使用していた言葉（第 1-5 表、5 ページ）は、回答者数が多いものから順に「中国語」が 3,314 人（79.8%）、韓国語が 804 人（19.4%）、英語が 477 人（11.5%）、モンゴル語が 130 人（3.1%）、ベトナム語が 59 人（1.4%）、マレー語が 51 人（1.2%）となっている。調査表以外の主要な言語や民族語を加えると、平均して一人当たりおよそ 1.3 言語を母国において日常的に話していたことがわかった。

第 1-4 表 出身国・地域別の回答者数

	国・地域	人数	%
アジア	中国 注1	3,131	75.4
	韓国	422	10.2
	台湾	175	4.2
	ベトナム	59	1.4
	マレーシア	52	1.3
	タイ	44	1.1
	インドネシア	40	1.0
	ネパール	32	0.8
	バングラデシュ	29	0.7
	モンゴル	25	0.6
	スリランカ	21	0.5
	ミャンマー	18	0.4
	イラン	9	0.2
	インド	6	0.1
	ラオス	5	0.1
	カンボジア	4	0.1
	フィリピン	3	0.1
	パキスタン	2	0.0
	トルコ	2	0.0
	サウジアラビア	2	0.0
	シンガポール	1	0.0
	ヨルダン	1	0.0
	小計		4,083
ヨーロッパ	エストニア	4	0.1
	ドイツ	3	0.1
	ロシア	3	0.1
	ウクライナ	3	0.1
	イギリス 注2	2	0.0
	フランス	2	0.0
	ブルガリア	2	0.0
	リトアニア	2	0.0
	カザフスタン	2	0.0
	イタリア	1	0.0
	オランダ	1	0.0
	スウェーデン	1	0.0
	デンマーク	1	0.0
	アルバニア	1	0.0
	クロアチア	1	0.0
	セルビア・モンテネグロ	1	0.0
	ハンガリー	1	0.0
	ポーランド	1	0.0
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1	0.0
	ラトビア	1	0.0
	ルーマニア	1	0.0
	ウズベキスタン	1	0.0
	キルギス	1	0.0
小計		37	0.9

	国・地域	人数	%
アフリカ	エジプト	2	0.0
	ケニア	3	0.1
	ウガンダ	2	0.0
	カメルーン	1	0.0
	コートジボワール	1	0.0
	小計	9	0.2
北米	カナダ	4	0.1
	米国	2	0.0
	グアテマラ	1	0.0
	メキシコ	1	0.0
	コスタリカ	1	0.0
	小計	9	0.2
南米	アルゼンチン	2	0.0
	ベネズエラ	2	0.0
	ペルー	2	0.0
	ブラジル	1	0.0
	小計	7	0.2
オセアニア	オーストラリア	2	0.0
	ニュージーランド	1	0.0
	小計	3	0.1
その他	不明	7	0.2
	小計	7	0.2
計		4,155	100.0

(注) 1. 香港、マカオを含む  
 2. 香港居住権を有する英国籍（イギリス政府が発給する BNO 旅券を所持）の者を 1 名含む

第 1-5 表 回答者の母語（複数回答設問）

区分	中国語	韓国語	マレー語	英語	タイ語	ベトナム語	インドネシア語	ベンガル語	シンハラ語	モンゴル語	ミャンマー語
人数(人)	3,314	804	51	477	49	59	41	30	21	130	18
率 (%)	79.8	19.4	1.2	11.5	1.2	1.4	1.0	0.7	0.5	3.1	0.4

  

区分	ネパール語	ドイツ語	フランス語	フィリピン語	ロシア語	ヒンディー語	アラビア語	カンボジア語	その他	不明
人数(人)	31	6	12	4	16	12	6	3	188	6
率 (%)	0.7	0.1	0.3	0.1	0.4	0.3	0.1	0.1	4.5	0.1

## 2. 日本留学前の状況

留学の目的（第2-1表）は、「学位を取得する」が最も多く、2,907人（70.0%）「外国語の能力を高めたい」が2,866人（69.0%）、「国際的な経験をつんで、国際的な人脈を作りたい」が2,697人（64.9%）、「就職に必要な進んだ技能や知識を身に付ける」が2,630人（63.3%）、「国際的な考え方を身に付けたい」が2,163人（52.1%）で、5割以上の回答率となっている。

日本を留学先として選んだ理由（第2-2表）としては、「日本語・日本文化を勉強したかったため」が2,073人（49.9%）で最も多く、次いで「日本社会に興味があり、日本で生活したかったため」が1,963人（47.2%）、「日本の大学等の教育、研究が魅力的と思ったため」が1,415人（34.1%）と続く。

留学するまでに特に苦勞したこと（第2-3表）は、「日本語学習」が最も多く2,356人（56.7%）、次いで「留学資金準備」が1,993人（48.0%）となっている。また、「情報の収集」（1,608人、38.7%）、「留学ビザ取得」（1,541人、37.1%）なども高い割合である。

留学情報の入手方法（第2-4表）としては、「インターネットを利用して学校や日本学生支援機構（JASSO）のHPを検索して」が最も多く1,285人（30.9%）、次いで「母国の学校や教員に相談して」が1,271人（30.6%）、「入学を希望する学校に直接問い合わせして」1,075人（25.9%）と続いている。

第2-1表 留学の目的（複数回答設問）

区分	学位を取得する	教養を身に付ける	就職に必要な進んだ技能や知識を身に付ける	国際的な経験をつんで、国際的な人脈を作りたい	国際的な考え方を身に付けたい	良い環境で研究を行う	外国語の能力を高めたい	他文化に接する	その他	不明
人数(人)	2,907	1,627	2,630	2,697	2,163	683	2,866	1,722	33	14
率(%)	70.0	39.2	63.3	64.9	52.1	16.4	69.0	41.4	0.8	0.3

第2-2表 日本を留学先として選んだ理由（複数回答設問）

区分	日本社会に興味があり、日本で生活したかったため	日本の大学等の教育、研究が魅力的と思ったため	地理的に近い	興味ある専門分野があったため	異文化に接したかったため	日本語・日本文化を勉強したかったため	日本と関連のある職業につきたかったため	奨学金を得られたため	友人、知人、家族等に勧められたため	大学間交流等により勧められたため	その他	不明
人数(人)	1,963	1,415	863	882	924	2,073	1,241	168	1,141	167	39	0
率(%)	47.2	34.1	20.8	21.2	22.2	49.9	29.9	4.0	27.5	4.0	0.9	0.0

第2-3表 留学するまでに特に苦勞したこと（複数回答設問）

区分	情報の収集	日本語学習	留学先学校との事前連絡	留学ビザ取得	留学資金準備	入学試験	その他	不明
人数(人)	1,608	2,356	1,021	1,541	1,993	915	68	22
率(%)	38.7	56.7	24.6	37.1	48.0	22.0	1.6	0.5

第2-4表 留学情報の入手方法（複数回答設問）

区分	日本留学フェア、教育展等に参加して	入学を希望する学校に直接問い合わせして	在外日本大使館等の在外公館に問い合わせして	母国の政府教育機関に問い合わせして	日本学生支援機構に問い合わせして	インターネットを利用して学校やJASSOのHPを検索して	その他の民間団体に問い合わせして	日本の出版物を購入して	母国の学校や教員に相談して	その他	不明
人数(人)	827	1,075	238	698	117	1,285	1,045	317	1,271	470	21
率(%)	19.9	25.9	5.7	16.8	2.8	30.9	25.2	7.6	30.6	11.3	0.5

### 3. 在日・在学年数及び入学前の活動

在日年数は（第3-1表）、「2年～3年未満」の1,079人（26.0%）が最も多く、次いで「3年～4年未満」が875人（21.1%）、「1年～2年未満」が702人（16.9%）と続き、在日年数が4年未満の者が2,891人（69.6%）で全体のおよそ7割を占めている。

第3-1表 在日年数

区分	1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～4年未満	4年～5年未満	5年～6年未満	6年以上	不明	計
人数(人)	235	702	1,079	875	626	388	241	9	4,155
率(%)	5.7	16.9	26.0	21.1	15.1	9.3	5.8	0.2	100.0

在籍段階別の在日年数（第3-2表）を見ると、大学院博士課程と修士課程の学生のおよそ5割（それぞれ51.5%、47.2%）が在日4年以上となるなど、課程の段階があがるにつれて在日年数が多い学生が増えている。

第3-2表 在籍段階別の在日年数

区分		1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～4年未満	4年～5年未満	5年～6年未満	6年以上	不明	計
大学院 博士課程	人数	18	37	50	52	54	45	69	1	326
	率(%)	5.5	11.3	15.3	16.0	16.6	13.8	21.2	0.3	100.0
大学院 修士課程	人数	20	85	121	80	67	92	115	1	581
	率(%)	3.4	14.6	20.8	13.8	11.5	15.8	19.8	0.2	100.0
大学院レベ ルの研究生	人数	12	7	4	1	4	3	4	0	35
	率(%)	34.3	20.0	11.4	2.9	11.4	8.6	11.4	0.0	100.0
学部 正規課程	人数	94	264	509	547	477	240	49	4	2,184
	率(%)	4.3	12.1	23.3	25.0	21.8	11.0	2.2	0.2	100.0
学部レベ ルの研究生・ 聴講生	人数	6	6	5	3	0	0	0	0	20
	率(%)	30.0	30.0	25.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
短期大学 正規課程	人数	11	43	53	32	9	4	0	1	153
	率(%)	7.2	28.1	34.6	20.9	5.9	2.6	0.0	0.7	100.0
専修学校 専門課程	人数	68	259	333	158	15	3	4	0	840
	率(%)	8.1	30.8	39.6	18.8	1.8	0.4	0.5	0.0	100.0
その他 ・不明	人数	6	1	4	2	0	1	0	2	16
	率(%)	37.5	6.3	25.0	12.5	0.0	6.3	0.0	12.5	100.0
合計	人数	235	702	1,079	875	626	388	241	9	4,155
	率(%)	5.7	16.9	26.0	21.1	15.1	9.3	5.8	0.2	100.0

表3-2の在籍段階における「その他・不明」を除いた4,139人のうち、来日後、「現在通っている大学・学校にすぐ入学した」と回答した者は799人（19.3%）、現在在籍している以外の学校に通ったり、就労等の経験があると回答した者は3,256人（78.7%）である。

以下の表（第3-3表と第3-4表、8ページ）は、在籍段階別の在籍学生の経路と、直接入学以外の者の在籍段階別の直近状況をまとめたものである。

第3-3表 在籍段階別の在籍学生の経路

区分		大学院 博士課程	大学院 修士課程	大学院レベ ルの研究生	学部 正規課程	学部レベル の研究生・ 聴講生	短期大学 正規課程	専修学校 専門課程	計
直接入学の者	人数(人)	101	116	0	347	8	42	185	799
	率(%)	31.0	20.0	0.0	15.9	40.0	27.5	22.0	19.3
直接入学以外の者	人数(人)	216	461	19	1,817	12	106	625	3,256
	率(%)	66.3	79.3	54.3	83.2	60.0	69.3	74.4	78.7
不明	人数(人)	9	4	16	20	0	5	30	84
	率(%)	2.8	0.7	45.7	0.9	0.0	3.3	3.6	2.0
全体	人数(人)	326	581	35	2,184	20	153	840	4,139
	率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注) 直接入学の者とは、現在在籍している大学・学校にすぐ入学した者を示す。

また、直接入学以外の者とは、現在在籍している以外の学校に通ったり、就労等の経験がある者を示す。

第3-4表 直接入学以外の者の在籍段階別の直近状況

区分		大学院 博士課程	大学院 修士課程	大学院レベ ルの研究生	学部 正規課程	学部レベル の研究生・ 聴講生	短期大学 正規課程	専修学校 専門課程	計
日本語学校	人数(人)	49	100	8	1,137	7	58	504	1,863
	率(%)	22.7	21.7	42.1	62.6	58.3	54.7	80.6	57.2
留学生別科	人数(人)	25	54	1	237	1	23	41	382
	率(%)	11.6	11.7	5.3	13.0	8.3	21.7	6.6	11.7
大学学部	人数(人)	29	153	4	30	1	3	9	229
	率(%)	13.4	33.2	21.1	1.7	8.3	2.8	1.4	7.0
短期大学	人数(人)	2	6	0	79	0	3	2	92
	率(%)	0.9	1.3	0.0	4.3	0.0	2.8	0.3	2.8
高等専門学校	人数(人)	3	11	0	81	0	3	7	105
	率(%)	1.4	2.4	0.0	4.5	0.0	2.8	1.1	3.2
専修学校	人数(人)	0	7	0	148	1	10	15	181
	率(%)	0.0	1.5	0.0	8.1	8.3	9.4	2.4	5.6
大学院	人数(人)	74	83	3	8	0	0	5	173
	率(%)	34.3	18.0	15.8	0.4	0.0	0.0	0.8	5.3
働いていた	人数(人)	15	19	1	72	1	3	39	150
	率(%)	6.9	4.1	5.3	4.0	8.3	2.8	6.2	4.6
その他	人数(人)	19	28	2	25	1	3	3	81
	率(%)	8.8	6.1	10.5	1.4	8.3	2.8	0.5	2.5
全体	人数(人)	216	461	19	1,817	12	106	625	3,256
	率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

#### 4. 留学後の日本への印象等

留学後の日本に対する印象（第4-1表）は、「良くなった」と回答した者が2,611人（62.8%）で6割以上となっており、「悪くなった」と回答した者は192人（4.6%）である。

留学後の日本人に対する印象（第4-2表）は、「良くなった」と回答した者が2,449人（58.9%）で5割以上となっており、「悪くなった」と回答した者は265人（6.4%）である。

日本へ留学しての全体的な印象（第4-3表）は、留学して「良かった」と回答した者が3,515人（84.6%）で8割以上となっており、「悪かった」と回答した者は53人（1.3%）である。

在日年数別での日本へ留学しての全体的な印象（第4-4表）を見ると、「良かった」との回答が在日年数不明者の項目を除き、全項目で8割以上であり、在日年数が「4年以上5年未満」（90.3%）が最も高い回答率となっている。在日年数が多くなるほど、印象が良くなっている傾向がある。

留学後の苦勞（第4-5表、10ページ）としては、「物価が高い」と回答した者が3,106人（74.8%）で7割以上となっており、次いで「日本語の習得」が1,848人（44.5%）、「日常生活における母国の習慣（生活習慣、宗教上の習慣等）との違い」が1,402人（33.7%）となっている。

第4-1表 留学後の日本に対する印象

区分	良くなった	悪くなった	どちらともいえない	不明	計
人数（人）	2,611	192	1,338	14	4,155
率（%）	62.8	4.6	32.2	0.3	100.0

第4-2表 留学後の日本人に対する印象

区分	良くなった	悪くなった	どちらともいえない	不明	計
人数（人）	2,449	265	1,436	5	4,155
率（%）	58.9	6.4	34.6	0.1	100.0

第4-3表 日本へ留学しての全体的な印象

区分	良かった	悪かった	どちらともいえない	不明	計
人数（人）	3,515	53	574	13	4,155
率（%）	84.6	1.3	13.8	0.3	100.0

第4-4表 在日年数別の日本へ留学しての全体的な印象

区分		良かった	悪かった	どちらともいえない	不明	計	
在日年数	1年未満	人数（人）	196	3	36	0	235
		率（%）	83.4	1.3	15.3	0.0	100.0
	1～2年未満	人数（人）	576	8	117	1	702
		率（%）	82.1	1.1	16.7	0.1	100.0
	2～3年未満	人数（人）	865	20	190	4	1,079
		率（%）	80.2	1.9	17.6	0.4	100.0
	3～4年未満	人数（人）	739	8	121	7	875
		率（%）	84.5	0.9	13.8	0.8	100.0
	4～5年未満	人数（人）	565	7	54	0	626
		率（%）	90.3	1.1	8.6	0.0	100.0
	5～6年未満	人数（人）	350	4	34	0	388
		率（%）	90.2	1.0	8.8	0.0	100.0
	6年以上	人数（人）	217	2	21	1	241
		率（%）	90.0	0.8	8.7	0.4	100.0
不明	人数（人）	7	1	1	0	9	
	率（%）	77.8	11.1	11.0	0.0	100.0	
合計	人数（人）	3,515	53	574	13	4,155	
	率（%）	84.6	1.3	13.8	0.3	100.0	

第 4-5 表 留学後の苦勞 (複数回答設問)

区分	日常生活における母国の習慣(生活習慣、宗教上の習慣等)との違い	宿舎等におけるルール(ゴミ出し等)を守ること	日本語の習得	英語の習得	学校内で日本人学生と交流できないこと	学校の教員、職員とのコミュニケーションが取れないこと	学校の授業についていくこと	宿舎等を探索すること	物価が高い	その他	不明
人数(人)	1,402	370	1,848	540	1,008	325	634	1,044	3,106	95	17
率(%)	33.7	8.9	44.5	13.0	24.3	7.8	15.3	25.1	74.8	2.3	0.4

## 5. 収入

全体の平均月収入額は、136,000円である。在籍段階別の平均月収入額（第5-1表）を比較すると、「専修学校専門課程」が151,000円で最も高い。以下、「大学院レベルの研究生」が138,000円、「短期大学正規課程」が137,000円、「学部正規課程」が134,000円、「大学院博士課程」と「大学院修士課程」が127,000円である。「専修学校専門課程」と「大学院博士課程」並びに「大学院修士課程」の差額は24,000円となる。「専修学校専門課程」と最も少ない「学部レベルの研究生・聴講生」の差は、42,000円である。

学校種別による平均月収入額（第5-2表）を見ると、「専修学校」の151,000円が最も高く、次いで「私立大学」の140,000円、「短期大学」の137,000円と続いている。

項目別平均月収入額（第5-3表）については、回答の多い順に「アルバイト」が3,507人（84.4%）で72,000円、「親・兄弟、又は親戚からの仕送り」が2,470人（59.4%）で57,000円、「奨学金」が1,856人（44.7%）で56,000円、「その他」が986人（23.7%）で37,000円、「保証人等知人からの援助」が291人（7.0%）で36,000円、「配偶者の収入」が178人（4.3%）で99,000円となっている。

第5-1表 在籍段階別の平均月収入額（全体と在籍段階別）

区分	大学院博士課程	大学院修士課程	大学院レベルの研究生	学部正規課程	学部レベルの研究生・聴講生	短期大学正規課程	専修学校専門課程	全体
平均月額（千円）	127	127	138	134	109	137	151	136

（注）1. 「平均月額」は、各在籍段階別に収入のある者の平均  
2. 全体の「平均月額」は収入に記入のある者の平均

第5-2表 学校種別による平均月収入額

区分	大学			短期大学	専修学校	不明	全体
	国立大学	公立大学	私立大学				
平均月額（千円）	108	105	140	137	151	151	136

第5-3表 項目別平均月収入額

区分	親・兄弟又は親戚からの仕送り	アルバイト	奨学金	保証人等知人からの援助	配偶者の収入	その他
回答者数	2,470	3,507	1,856	291	178	986
率（%）	59.4	84.4	44.7	7.0	4.3	23.7
平均月額（千円）	57	72	56	36	99	37

（注）「平均月額」は、各項目について収入に記入のある者の平均

また、項目別の平均月収入額を年度別比較（第5-4表、12ページ）で見ると、奨学金の収入額が減っており、親・兄弟又は親戚からの仕送り、アルバイトの収入が増えている。

居住地域別平均月収入額（第5-5表、12ページ）は、関東地方が平均150,000円と全国で最も高く、四国地方・九州地方が110,000円で最も低い。なお、東京のみでは154,000円となっている。

第 5-4 表 項目別の平均月收入額 (年度別比較表)

区分	調査年度	親・兄弟又は 親戚からの 仕送り	アルバイト	奨学金	保証人等知人 からの援助	配偶者の収入	その他
率 (%)	平成 17 年	59.4	84.4	44.7	7.0	4.3	23.7
	平成 15 年	46.4	81.3	44.4	5.9	4.7	30.3
	平成 13 年	34.5	76.7	57.6	6.0	8.2	39.9
平均月額 (千円)	平成 17 年	57	72	56	36	99	37
	平成 15 年	40	60	59	29	93	40
	平成 13 年	55	68	70	50	102	43

- (注) 1. 「平均月額」は、各項目について収入に記入のある者の平均  
 2. 収入及び支出は、生活者の実態をより正確に把握するため、差額を収入では「その他」、支出では、「その他の日常的な経費」と「残額」で調整し、収入・支出は同額となっている

第 5-5 表 居住地域別平均月收入額

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	東京	全国平均
平均月額 (単位:千円)	122	111	150	124	134	120	110	110	154	136

- (注) 「平均月額」は、各項目について収入のある者の平均

## 6. 奨学金

奨学金の受給者は、1,856人で全体の4割程となっている。奨学金の受給内容内訳（第6-1表）を回答の多い順に見ると、「学習奨励費（日本学生支援機構奨学金）」が1,202人（64.8%）で平均月額54,000円、「その他の奨学金」が373人（20.1%）で46,000円、「民間団体の奨学金」が222人（12.0%）で79,000円、「地方自治体（都道府県市区町村）による援助金」が139人（7.5%）で25,000円である。

在籍学校別奨学金受給者（第6-2表）を見ると、「国立大学」が414人（53.5%）で、平均が73,000円と最も高く、最も低い金額は「短期大学」で83人（54.2%）44,000円となっている。

第6-1表 奨学金の受給内容内訳

区分	学習奨励費（日本学生支援機構奨学金）	地方自治体（都道府県市区町村）による援助金	民間団体の奨学金	その他の奨学金
人数（人）	1,202	139	222	373
率（%）	64.8	7.5	12.0	20.1
平均月額（単位：千円）	54	25	79	46

- （注）1. 「平均月額」は、各項目について奨学金のある者の平均  
2. 率は、奨学金回答者数を100とした割合

第6-2表 在籍学校別奨学金受給者

区分	大学				短期大学	専修学校	不明	計
	国立	公立	私立	大学計				
人数（人）	414	57	1,147	1,618	83	143	12	1,856
率（%）	53.5	62.6	50.4	51.5	54.2	17.0	54.5	44.7
平均月額（千円）	73	65	51	57	44	45	60	56

- （注）1. 「平均月額」は、各項目について奨学金のある者の平均  
2. 率は、各在籍学校別の回答者数（第1-1表）を100とした割合

在籍段階別奨学金受給者（第6-3表）を見ると、最も受給率が高いのは「大学院博士課程」の66.3%（216人）で、平均月額は79,000円である。次いで「大学院修士課程」の56.1%（326人、73,000円）、「短期大学正規課程」の54.2%（83人、44,000円）、「学部正規課程」が48.7%（1,064人、48,000円）と続く。最も受給率が低いのは「専修学校専門課程」の17.0%（143人、45,000円）である。

第6-3表 在籍段階別奨学金受給者

区分	大学院博士課程	大学院修士課程	大学院レベルの研究生	学部正規課程	学部レベルの研究生・聴講生	短期大学正規課程	専修学校専門課程	その他・不明	全体
人数（人）	216	326	10	1,064	5	83	143	9	1,856
率（%）	66.3	56.1	28.6	48.7	25.0	54.2	17.0	56.3	44.7
平均月額（千円）	79	73	104	48	51	44	45	54	56

- （注）1. 「平均月額」は、各項目について奨学金のある者の平均  
2. 率は、各在籍段階別の回答者数（第1-2表）を100とした割合

学習奨励費（日本学生支援機構奨学金）受給者の学習奨励費の給付に対する要望（第6-4表、14ページ）は、「支給期間を1年間から延ばしてほしい」が710人（59.1%）で最も多く、次に「給付金額の増額」が706人（58.7%）、「受給者数の増加」が596人（49.6%）で、いずれも他の項目と比較して強い要望があがっている。

第 6-4 表 学習奨励費に対する要望 (複数回答設問)

区分	給付金額の増額	受給者数の増加	海外で奨学金予約ができるように予約者数を増やして欲しい	支給期間を1年間から延ばしてほしい	母国において学習奨励費の情報が少なかったため、もっと情報提供して欲しい	学校内での選考について、もっと情報提供してほしい	その他	不明
人数(人)	706	596	116	710	243	355	11	33
率 (%)	58.7	49.6	9.7	59.1	20.2	29.5	0.9	2.7

- (注) 1. 回答者数は第 6-1 表の「学習奨励費」の件数  
 2. 率は、学習奨励費回答者数を 100 とした割合

次に、学習奨励費を受けて良かったこと (第 6-5 表) を見ると、「日常生活に不安がなくなり、勉強に集中できた」が 1,073 人 (89.3%) で回答率が最も多い。次いで「成績が良くなれば、学習奨励費を受けられると思い励みになった」が 907 人 (75.5%) となっている。

第 6-5 表 学習奨励費を受けて良かったこと (複数回答設問)

区分	日常生活に不安がなくなり、勉強に集中できた	成績が良くなれば、学習奨励費を受けられると思い励みになった	宿舎を探すのにも奨学金があると有利だった	奨学金があるので学校のクラブ活動等に参加できるようになった	その他	不明
人数(人)	1,073	907	174	327	38	38
率 (%)	89.3	75.5	14.5	27.2	3.2	3.2

- (注) 1. 回答者数は第 6-1 表の「学習奨励費」の件数  
 2. 率は、学習奨励費回答者数を 100 とした割合

## 7. 支出

在籍段階別の平均月支出額（第 7-1 表）を見ると、「専修学校専門課程」が 151,000 円で最も高い。以下、「大学院レベルの研究生」が 138,000 円、「短期大学正規課程」が 137,000 円、「学部正規課程」が 134,000 円、「大学院博士課程」と「大学院修士課程」が 127,000 円、「学部レベルの研究生・聴講生」が 109,000 円である。なお、支出の平均月額額は 136,000 円である。

第 7-1 表 在籍段階別の平均月支出額（全体と在籍段階別）

区分	大学院博士課程	大学院修士課程	大学院レベルの研究生	学部正規課程	学部レベルの研究生・聴講生	短期大学正規課程	専修学校専門課程	全体
平均月額(千円)	127	127	138	134	109	137	151	136

(注) 1. 「平均月額」は、各在籍段階別に支出のある者の平均  
2. 全体の「平均月額」は支出に記入のある者の平均

居住地域別の平均月支出額（第 7-2 表）を見ると、関東地方が平均 150,000 円と全国で最も高く、四国・九州地方が 110,000 円と最も低い。なお、東京のみでは 154,000 円となっている。

第 7-2 表 居住地域別の平均月支出額

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	東京	全国平均
月額(千円)	122	111	150	124	134	120	110	110	154	136

項目別平均月支出額の内訳（第 7-3 表）を見ると、「学習研究費」が 52,000 円と最も高く、以下「住居費」が 31,000 円、「食費」が 24,000 円、「その他の日常的な経費」が 14,000 円、「趣味・娯楽費」が 9,000 円という順で続いている。

第 7-3 表 項目別平均月支出額の内訳

区分	学習研究費	通学費	食費	住居費	電気、ガス、水道料金	保険、医療費	趣味、娯楽費	その他の日常的な経費	残額
人数(人)	3,861	2,490	4,029	3,939	3,644	2,772	2,200	2,684	1,757
率(%)	92.9	59.9	97.0	94.8	87.7	66.7	52.9	64.6	42.3
平均月額(千円)	52	8	24	31	7	3	9	14	18

(注) 1. 率は回答者数を 100 とした割合  
2. 「平均月額」は、各項目について支出に記入のある者の平均  
3. 収入及び支出は、生活者の実態をより正確に把握するため、差額を収入では「その他」、支出では、「その他の日常的な経費」と「残額」で調整し、収入・支出は同額となっている

「学習研究費」の内訳（第 7-4 表）を見ると、「授業料」の平均月額が 51,000 円、「教科書、実習材料、文具等の経費」が 8,000 円、「サークル活動の会費、合宿費」が 5,000 円となっている。

第 7-4 表 学習研究費の内訳

区分	授業料 *	(授業料内訳) 学校種別					教科書、実習材料、文具等の経費*	サークル活動の会費、合宿費*
		国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	専修学校		
人数(人)	3,594	581	50	2,068	136	739	2,203	333
率(%)	86.5	75.1	54.9	90.9	88.9	88.0	53.0	8.0
平均月額(千円)	51	34	38	54	50	57	8	5

(注) 1. \*印列中の率は、全体の回答者数を 100 とした割合を示す。  
2. 学校種別列中の内訳の率は、第 1 表のそれぞれの学校区分回答者数を 100 とした割合である。

項目別平均月支出額（年度別比較表）（第7-5表）を見ると、全支出の中でこの学習研究費の伸びが大きいことがわかる。

第7-5表 項目別平均月支出額（年度別比較表）

区分	調査年度	学習研究費		通学費	食費	住居費	電気、ガス、水道料金	保険、医療費	趣味、娯楽費	その他の日常的な経費	残額
		授業料	授業料以外								
平均月額 (千円)	平成17年度	51	13	8	24	31	7	3	9	14	18
	平成15年度	47	10	8	24	30	7	3	7	11	22
	平成13年度	48	9	8	27	30	8	3	7	11	25

宿舎形態と在籍学校区分による平均月支出額（第7-6表）については、その他を除き、「民間アパート・マンション等」に居住する専修学校生が最も高く、月あたり平均153,000円支出していることがわかる。最も低いのは、国立大学に通い大学の学生寮に住んでいる大学院レベル及び学部レベルの学生で、月あたり平均93,000円（大学院レベルの学生、100,000円、学部レベルの学生83,000円）である。宿舎については、第10節で詳しくふれる。

※大学院レベルは、大学院博士課程、修士課程、大学院レベルの研究生を示し、学部レベルは、学部正規課程・研究生・聴講生、短期大学正規課程、専修学校専門課程を示す。

第7-6表 宿舎形態と在籍学校区分による平均月支出額

区分		国立大学			公立大学		
		大学院レベルの学生	学部レベルの学生	全体	大学院レベルの学生	学部レベルの学生	全体
民間アパート・マンション等	人数(人)	283	150	433	29	33	44
	平均支出額(千円)	117	100	111	109	98	103
大学・学校の学生寮 (留学生用・一般学生用)	人数(人)	127	95	222	8	7	15
	平均支出額(千円)	100	83	93	116	98	108
その他	人数(人)	94	24	118	8	6	14
	平均支出額(千円)	127	115	124	117	102	110

区分		私立大学			短期大学	専修学校
		大学院レベルの学生	学部レベルの学生	全体		
民間アパート・マンション	人数(人)	296	1,477	1,773	117	684
	平均支出額(千円)	150	143	144	138	153
大学・学校の学生寮 (留学生用・一般学生用)	人数(人)	44	262	306	28	81
	平均支出額(千円)	121	122	122	126	138
その他	人数(人)	47	143	190	8	71
	平均支出額(千円)	143	134	136	165	138

## 8. アルバイト

アルバイト従事率（第 8-1 表）は全体の 8 割（84.4%）で、3,507 人が何らかのアルバイトをしている。

在籍学校別アルバイト従事率（第 8-2 表）を見ると、国立大学（72.0%）、公立大学（79.1%）では全体の平均を下回っているが、私立大学、短期大学、専修学校では、8 割以上の者がアルバイトに従事している。

在籍段階別アルバイト従事率（第 8-3 表）を見ると、「短期大学正規課程」（88.9%）、「学部正規課程」（88.3%）、「専修学校専門課程」（86.9%）では 8 割以上の者がアルバイトに従事している。

アルバイトの職種（第 8-4 表、18 ページ）は、軽労働の「飲食業」が 1,929 人（55.0%）と一番多く、5 割以上を占めている。以下、「営業・販売」が 577 人（16.5%）、「語学教師」が 312 人（8.9%）、「清掃」が 208 人（5.9%）、「一般事務」が 187 人（5.3%）、「工場組立作業」が 154 人（4.4%）となっている。

第 8-1 表 アルバイト従事率

区分	アルバイトをしている	アルバイトをしていない	計
人数（人）	3,507	648	4,155
率（%）	84.4	15.6	100

第 8-2 表 在籍学校別アルバイト従事率

区分	大学				短期大学	専修学校	不明	計
	国立	公立	私立	大学計				
人数（人）	557	72	1993	2622	136	730	19	3,507
率（%）	72.0	79.1	87.6	83.5	88.9	86.9	86.4	84.4

(注) 率は、各在籍学校別の回答者数（第 1-1 表）を 100 とした割合

第 8-3 表 在籍段階別アルバイト従事率

区分	大学院 博士課程	大学院 修士課程	大学院レ ベルの研究生	学部 正規課程	学部レベル の研究生・ 聴講生	短期大学 正規課程	専修学校 専門課程	その他 ・不明	計
人数（人）	219	443	22	1,928	16	136	730	13	3,507
率（%）	67.2	76.2	62.9	88.3	80.0	88.9	86.9	81.3	84.4

(注) 率は、各在籍段階別の回答者数（第 1-2 表）を 100 とした割合

第8-4表 アルバイトの職種（複数回答設問）

区分	講師			事務		軽労働						
	家庭教師	語学教師	塾講師	一般事務	計算事務	清掃	警備	ビル管理	ガソリンスタンド	配達	発送作業	飲食業
人数(人)	128	312	22	187	32	208	13	5	13	94	38	1,929
率(%)	3.6	8.9	0.6	5.3	0.9	5.9	0.4	0.1	0.4	2.7	1.1	55.0

区分	軽労働		重労働				特殊技能					
	営業・販売	出版物等の印刷作業	土木・建設作業	引越業	工場組立作業	農業	倉庫整理	製図	トレース	理容	美容	コンピュータ・プログラマー、オペレーター
人数(人)	577	33	10	7	154	0	30	12	0	0	3	40
率(%)	16.5	0.9	0.3	0.2	4.4	0	0.9	0.3	0	0	0.1	1.1

区分	特殊技能			その他	不明
	コンピュータ・グラフィック・デザイナー	イラストレーター	映像・音響機器取扱作業		
人数(人)	12	4	8	144	117
率(%)	0.3	0.1	0.2	4.1	3.3

(注) 1. 回答者数は、第8-1表のアルバイトをしている件数  
 2. 率は、アルバイトをしている回答者数を100とした割合

1週間のアルバイトの時間数（第8-5表）は、20時間～25時間未満が1,120人（31.9%）と最も多く、次いで15時間～20時間未満が839人（23.9%）となっている。在籍段階別では、「大学院博士課程」、「大学院修士課程」で15時間未満の割合が高く4割以上となっているが、「学部正規課程」、「短期大学正規課程」、「専修学校専門課程」では逆に15時間以上の割合が6割を超えている。

第8-5表 1週間のアルバイトの時間数（全体と在籍段階別）

区分		5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～15時間未満	15時間～20時間未満	20時間～25時間未満	25時間以上	不明	計
		大学院博士課程	人数(人)	37	47	40	42	26	10
	率(%)	16.9	21.5	18.3	19.2	11.9	4.6	7.8	100.0
大学院修士課程	人数(人)	30	79	90	112	91	23	18	443
	率(%)	6.8	17.8	20.3	25.3	20.5	5.2	4.1	100.0
大学院レベルの研究生	人数(人)	1	4	4	5	8	0	0	22
	率(%)	4.5	18.2	18.2	22.7	36.4	0.0	0.0	100.0
学部正規課程	人数(人)	74	149	290	479	632	243	61	1,928
	率(%)	3.8	7.7	15.0	24.8	32.8	12.6	3.2	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数(人)	1	2	7	3	2	0	1	16
	率(%)	6.3	12.5	43.8	18.8	12.5	0.0	6.3	100.0
短期大学正規課程	人数(人)	4	8	19	30	59	12	4	136
	率(%)	2.9	5.9	14.0	22.1	43.4	8.8	2.9	100.0
専修学校専門課程	人数(人)	20	27	85	166	297	112	23	730
	率(%)	2.7	3.7	11.6	22.7	40.7	15.3	3.2	100.0
その他・不明	人数(人)	0	0	3	2	5	2	1	13
	率(%)	0	0	23.1	15.4	38.5	15.4	7.7	100.0
全体	人数(人)	167	316	538	839	1,120	402	125	3,507
	率(%)	4.8	9.0	15.3	23.9	31.9	11.5	3.6	100.0

(注) 回答者数は、第8-1表のアルバイトをしている件数

奨学金受給の有無別に分けると、奨学金受給者のアルバイト時間数（第8-6表）は、全体で20時間～25時間未満が378人（24.9%）と一番多く、次いで15時間～20時間未満が365人（24.0%）となっている。また、在籍段階別では、「大学院博士課程」、「大学院修士課程」で15時間未満の割合が高く5割以上となっているが、「学部正規課程」、「短期大学正規課程」、「専修学校専門課程」では15時間以上の割合が6割以上となっている。

第8-6表 奨学金受給者のアルバイト時間数（全体と在籍段階別）

区分		5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～15時間未満	15時間～20時間未満	20時間～25時間未満	25時間以上	不明	計
大学院博士課程	人数(人)	25	33	30	21	10	5	14	138
	率(%)	18.1	23.9	21.7	15.2	7.2	3.6	10.1	100.0
大学院修士課程	人数(人)	21	59	53	51	32	7	8	231
	率(%)	9.1	25.5	22.9	22.1	13.9	3.0	3.5	100.0
大学院レベルの研究生	人数(人)	0	0	2	0	2	0	0	4
	率(%)	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0
学部正規課程	人数(人)	45	90	179	240	263	93	26	936
	率(%)	4.8	9.6	19.1	25.6	28.1	9.9	2.8	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数(人)	0	0	2	1	0	0	0	3
	率(%)	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
短期大学正規課程	人数(人)	2	5	12	19	27	6	4	75
	率(%)	2.7	6.7	16.0	25.3	36.0	8.0	5.3	100.0
専修学校専門課程	人数(人)	4	6	23	31	43	15	6	128
	率(%)	3.1	4.7	18.0	24.2	33.6	11.7	4.7	100.0
その他・不明	人数(人)	0	0	3	2	1	0	0	6
	率(%)	0.0	0.0	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	100.0
合計	人数(人)	97	193	304	365	378	126	58	1,521
	率(%)	6.4	12.7	20.0	24.0	24.9	8.3	3.8	100.0

(注) 回答者数は、第8-1表のアルバイトをしている及び、奨学金を受給している件数

奨学金非受給者のアルバイト時間数（第8-7表）も、全体で20時間～25時間未満が742人（37.4%）と最も多く、次いで15時間～20時間未満が474人（23.9%）となっている。在籍段階別では、「学部正規課程」、「短期大学正規課程」、「専修学校専門課程」では15時間以上アルバイトをしている層の割合が6割以上となっている。

また、第8-6表と第8-7表から奨学金受給者と非受給者のアルバイト時間数を比較すると、「15時間以上」アルバイトをする者は、奨学金受給者の57.1%に対して非受給者は75.1%となり、非受給者の方がアルバイトに費やす時間が多いことがわかる。

第8-7表 奨学金非受給者のアルバイト時間数（全体と在籍段階別）

区分		5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～15時間未満	15時間～20時間未満	20時間～25時間未満	25時間以上	不明	計
大学院博士課程	人数(人)	12	14	10	21	16	5	3	81
	率(%)	14.8	17.3	12.3	25.9	19.8	6.2	3.7	100.0
大学院修士課程	人数(人)	9	20	37	61	59	16	10	212
	率(%)	4.2	9.4	17.5	28.8	27.8	7.5	4.7	100.0
大学院レベルの研究生	人数(人)	1	4	2	5	6	0	0	18
	率(%)	5.6	22.2	11.1	27.8	33.3	0.0	0.0	100.0
学部正規課程	人数(人)	29	59	111	239	369	150	35	992
	率(%)	2.9	5.9	11.2	24.1	37.2	15.1	3.5	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数(人)	1	2	5	2	2	0	1	13
	率(%)	7.7	15.4	38.5	15.4	15.4	0.0	7.7	100.0
短期大学正規課程	人数(人)	2	3	7	11	32	6	0	61
	率(%)	3.3	4.9	11.5	18.0	52.5	9.8	0.0	100.0

区分		5時間未満	5時間～10時間未満	10時間～15時間未満	15時間～20時間未満	20時間～25時間未満	25時間以上	不明	計
専修学校 専門課程	人数(人)	16	21	62	135	254	97	17	602
	率(%)	2.7	3.5	10.3	22.4	42.2	16.1	2.8	100.0
その他 ・不明	人数(人)	0	0	0	0	4	2	1	7
	率(%)	0	0	0	0	57.1	28.6	14.3	100.0
合計	人数(人)	70	123	234	474	742	276	67	1,986
	率(%)	3.5	6.2	11.8	23.9	37.4	13.9	3.4	100.0

(注) 回答者数は、第8-1表のアルバイトをしている及び奨学金を受給していない件数

アルバイトに従事する理由(第8-8表)は「日本での生活を維持するために必要だから」が2,531人(72.2%)で7割以上となっている。

第8-8表 アルバイトに従事する理由

区分	日本での生活を維持するために必要だから	教養・娯楽などにあつて費用を得るため	日本人との交流など良い機会になるから	その他	不明	計
人数(人)	2,531	137	671	32	136	3,507
率(%)	72.2	3.9	19.1	0.9	3.9	100.0

(注) 1. 回答者数は、第8-1表のアルバイトをしている件数

2. 率は、アルバイトをしている回答者数を100とした割合

アルバイトの時給額(第8-9表)は、800円～1,000円未満が1,880人(53.6%)で最も多く、次いで800円未満が636人(18.1%)となっており、1,000円未満での時給が7割以上となっている。

在籍段階別に見ると、2,000円以上の時給に対する比率が最も高いのは、「大学院博士課程」(11.0%)であり、次いで「大学院修士課程」(5.6%)となっており、上位の課程になれば時給も高くなっている。

第8-9表 アルバイトの時給額(全体と在籍段階別)

区分		800円未満	800円～1,000円未満	1,000円～1,200円未満	1,200円～1,400円未満	1,400円～1,600円未満	1,600円～1,800円未満	1,800円～2,000円未満	2,000円以上	不明	計
大学院 博士課程	人数(人)	31	66	40	21	12	0	9	24	16	219
	率(%)	14.2	30.1	18.3	9.6	5.5	0.0	4.1	11.0	7.3	100.0
大学院 修士課程	人数(人)	85	200	85	17	6	2	5	25	18	443
	率(%)	19.2	45.1	19.2	3.8	1.4	0.5	1.1	5.6	4.1	100.0
大学院レベル の研究生	人数(人)	6	7	5	3	0	0	1	0	0	22
	率(%)	27.3	31.8	22.7	13.6	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	100.0
学部 正規課程	人数(人)	390	1,070	321	29	14	6	9	31	58	1,928
	率(%)	20.2	55.5	16.6	1.5	0.7	0.3	0.5	1.6	3.0	100.0
学部レベルの 研究生・聴講生	人数(人)	5	6	4	0	0	0	0	0	1	16
	率(%)	31.3	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	100.0
短期大学 正規課程	人数(人)	39	71	16	2	1	0	0	3	4	136
	率(%)	28.7	52.2	11.8	1.5	0.7	0.0	0.0	2.2	2.9	100.0
専修学校 専門課程	人数(人)	76	452	151	15	4	1	6	3	22	730
	率(%)	10.4	61.9	20.7	2.1	0.5	0.1	0.8	0.4	3.0	100.0
その他 ・不明	人数(人)	4	8	0	0	0	0	0	0	1	13
	率(%)	30.8	61.5	0	0	0	0	0	0	7.7	100.0
合計	人数(人)	636	1,880	622	87	37	9	30	86	120	3,507
	率(%)	18.1	53.6	17.7	2.5	1.1	0.3	0.9	2.5	3.4	100.0

(注) 1. 回答者数は、第8-1表のアルバイトをしている件数

2. 率は、アルバイトをしている回答者数を100とした割合

## 9. 授業時間を除く学習・研究時間

在籍段階別学習・研究時間（第9-1表）を見ると、大学院博士課程では、週35時間以上勉強していると回答した者（186人、57.1%）が過半数以上を占めており、大学院修士課程では、週14時間から35時間未満と回答した者（314人、54.0%）が過半数以上を占めている。

「学部正規課程」以下は、週28時間未満と回答した者が過半数以上を占め、「学部正規課程」（1,879人、86.0%）、「短期大学正規課程」（132人、86.3%）、「専修学校専門課程」（713人、84.9%）となっており、特に7～21時間未満と回答した者が多い。

第9-1表 在籍段階別学習・研究時間

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
大学院博士課程	人数(人)	8	20	27	39	45	49	49	88	1	326
	率(%)	2.5	6.1	8.3	12.0	13.8	15.0	15.0	27.0	0.3	100.0
大学院修士課程	人数(人)	27	83	111	104	99	65	35	57	0	581
	率(%)	4.6	14.3	19.1	17.9	17.0	11.2	6.0	9.8	0.0	100.0
大学院レベルの研究生	人数(人)	2	7	8	6	2	3	4	3	0	35
	率(%)	5.7	20.0	22.9	17.1	5.7	8.6	11.4	8.6	0.0	100.0
学部正規課程	人数(人)	286	631	588	374	171	73	36	24	1	2,184
	率(%)	13.1	28.9	26.9	17.1	7.8	3.3	1.6	1.1	0.0	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数(人)	1	4	4	6	3	1	1	0	0	20
	率(%)	5.0	20.0	20.0	30.0	15.0	5.0	5.0	0.0	0.0	100.0
短期大学正規課程	人数(人)	29	37	47	19	13	5	3	0	0	153
	率(%)	19.0	24.2	30.7	12.4	8.5	3.3	2.0	0.0	0.0	100.0
専修学校専門課程	人数(人)	137	208	195	173	94	17	9	4	3	840
	率(%)	16.3	24.8	23.2	20.6	11.2	2.0	1.1	0.5	0.4	100.0

在籍段階別奨学金受給者及び非受給者の学習・研究時間（第9-2表と第9-3表、22ページ）を見ると、大学院博士課程、大学院修士課程では、奨学金受給者の方が非受給者よりも学習・研究時間が多いことが比較的明らかである。

一方、学部レベル以下の奨学金受給者では、週当たり14時間から21時間未満と回答したものが最も多く、非受給者の学部正規課程では、週7時間から14時間未満、短期大学正規課程では、週7時間から14時間未満と週14時間から21時間未満、専修学校専門課程では、週7時間から14時間未満と回答したものが多く、奨学金受給者と非受給者で大学院ほどの明らかな差は見られない。

第9-2表 奨学金受給者の在籍段階別学習・研究時間

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
大学院博士課程	人数(人)	3	9	18	21	33	33	33	66	0	216
	率(%)	1.4	4.2	8.3	9.7	15.3	15.3	15.3	30.6	0.0	100.0
大学院修士課程	人数(人)	9	38	56	60	53	47	22	41	0	326
	率(%)	2.8	11.7	17.2	18.4	16.3	14.4	6.7	12.6	0.0	100.0
大学院レベルの研究生	人数(人)	0	1	2	3	1	1	2	0	0	10
	率(%)	0.0	10.0	20.0	30.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0	100.0
学部正規課程	人数(人)	101	288	320	186	96	41	18	13	1	1,064
	率(%)	9.5	27.1	30.1	17.5	9.0	3.9	1.7	1.2	0.1	100.0
学部レベルの研究生・聴講生	人数(人)	1	0	1	3	0	0	0	0	0	5
	率(%)	20.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
短期大学正規課程	人数(人)	12	19	29	8	8	4	3	0	0	83
	率(%)	14.5	22.9	34.9	9.6	9.6	4.8	3.6	0.0	0.0	100.0
専修学校専門課程	人数(人)	25	29	42	25	16	1	2	3	0	143
	率(%)	17.5	20.3	29.4	17.5	11.2	0.7	1.4	2.1	0.0	100.0

第9-3表 奨学金非受給者の在籍段階別学習・研究時間

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
大学院 博士課程	人数(人)	5	11	9	18	12	16	16	22	1	110
	率(%)	4.5	10.0	8.2	16.4	10.9	14.5	14.5	20.0	0.9	100.0
大学院 修士課程	人数(人)	18	45	55	44	46	18	13	16	0	255
	率(%)	7.1	17.6	21.6	17.3	18.0	7.1	5.1	6.3	0.0	100.0
大学院レベル の研究生	人数(人)	2	6	6	3	1	2	2	3	0	25
	率(%)	8.0	24.0	24.0	12.0	4.0	8.0	8.0	12.0	0.0	100.0
学部 正規課程	人数(人)	185	343	268	188	75	32	18	11	0	1,120
	率(%)	16.5	30.6	23.9	16.8	6.7	2.9	1.6	1.0	0.0	100.0
学部レベルの 研究生・聴講生	人数(人)	0	4	3	3	3	1	1	0	0	15
	率(%)	0.0	26.7	20.0	20.0	20.0	6.7	6.7	0.0	0.0	100.0
短期大学 正規課程	人数(人)	17	18	18	11	5	1	0		0	70
	率(%)	24.3	25.7	25.7	15.7	7.1	1.4	0.0	0.0	0.0	100.0
専修学校 専門課程	人数(人)	112	179	153	148	78	16	7		3	697
	率(%)	16.1	25.7	22.0	21.2	11.2	2.3	1.0	0.1	0.4	100.0

専攻別の学習・研究時間（第9-4表）を見ると、「人文科学」、「社会科学」、「教育」、「その他」の分野では、約6割が週21時間未満（1日当たり平均3時間）であり、特に週7時間から14時間未満の回答が最も多い。

一方、「農学」、「医・歯学」では、それぞれ42人（54.5%）と50人（74.6%）の学生が週28時間以上（1日当たり平均4時間以上）学習している。

「理学」では、週14時間から21時間未満の28人（24.8%）、「工学」では、週21時間から28時間未満の98人（20.9%）の回答が最も多かったが、その他の時間にも回答が広く散らばっている。

第9-4表 専攻別の学習・研究時間

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
人文科学	人数(人)	79	166	161	104	67	24	16	25	2	644
	率(%)	12.3	25.8	25.0	16.1	10.4	3.7	2.5	3.9	0.3	100.0
社会科学	人数(人)	199	436	428	276	150	78	35	43	1	1,646
	率(%)	12.1	26.5	26.0	16.8	9.1	4.7	2.1	2.6	0.1	100.0
理学	人数(人)	12	19	28	20	11	7	6	10	0	113
	率(%)	10.6	16.8	24.8	17.7	9.7	6.2	5.3	8.8	0.0	100.0
工学	人数(人)	41	83	83	98	58	31	33	42	0	469
	率(%)	8.7	17.7	17.7	20.9	12.4	6.6	7.0	9.0	0.0	100.0
農学	人数(人)	3	11	10	11	5	12	12	13	0	77
	率(%)	3.9	14.3	13.0	14.3	6.5	15.6	15.6	16.9	0.0	100.0
医・歯学	人数(人)	2	4	4	6	12	12	8	18	1	67
	率(%)	3.0	6.0	6.0	9.0	17.9	17.9	11.9	26.9	1.5	100.0
薬学	人数(人)	1	1	1	1	1	1	0	9	0	15
	率(%)	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0	60.0	0.0	100.0
家政	人数(人)	2	2	4	13	0	3	2	0	0	26
	率(%)	7.7	7.7	15.4	50.0	0.0	11.5	7.7	0.0	0.0	100.0
教育	人数(人)	25	46	40	28	26	14	6	6	0	191
	率(%)	13.1	24.1	20.9	14.7	13.6	7.3	3.1	3.1	0.0	100.0
その他	人数(人)	124	214	212	161	99	31	17	10	1	869
	率(%)	14.3	24.6	24.4	18.5	11.4	3.6	2.0	1.2	0.1	100.0
不明	人数(人)	5	12	11	6	2	0	2	0	0	38
	率(%)	13.2	31.6	28.9	15.8	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	100.0
計	人数(人)	493	994	982	724	431	213	137	176	5	4,155
	率(%)	11.9	23.9	23.6	17.4	10.4	5.1	3.3	4.2	0.1	100.0

専攻別の奨学金受給者及び非受給者の学習・研究時間（第9-5表と第9-6表）を見ると、奨学金受給者では、「農学」が62.2%（45人中28人）、「医・歯学」が64.1%（39人中25人）が週35時間以上（1日当たり5時間以上）勉強している。

一方、非受給者では、「農学」が28.1%（32人中9人）、「医・歯学」が46.4%（28人中13人）となっており、特にこの2つの専攻において、奨学金受給の有無により学習時間に明らかな差が生じている。

第9-5表 専攻別の奨学金受給者の学習・研究時間

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
人文科学	人数(人)	30	72	88	47	36	17	9	19	0	318
	率(%)	9.4	22.6	27.7	14.8	11.3	5.3	2.8	6.0	0.0	100.0
社会科学	人数(人)	69	194	223	150	86	50	22	26	0	820
	率(%)	8.4	23.7	27.2	18.3	10.5	6.1	2.7	3.2	0.0	100.0
理学	人数(人)	4	8	12	7	5	3	4	5	0	48
	率(%)	8.3	16.7	25.0	14.6	10.4	6.3	8.3	10.4	0.0	100.0
工学	人数(人)	10	25	36	31	28	21	18	28	0	197
	率(%)	5.1	12.7	18.3	15.7	14.2	10.7	9.1	14.2	0.0	100.0
農学	人数(人)	2	4	6	4	1	8	9	11	0	45
	率(%)	4.4	8.9	13.3	8.9	2.2	17.8	20.0	24.4	0.0	100.0
医・歯学	人数(人)	1	3	1	3	6	6	5	14	0	39
	率(%)	2.6	7.7	2.6	7.7	15.4	15.4	12.8	35.9	0.0	100.0
薬学	人数(人)	0	0	1	0	1	1	0	8	0	11
	率(%)	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	72.7	0.0	100.0
家政	人数(人)	0	0	4	2	0	1	1	0	0	8
	率(%)	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	100.0
教育	人数(人)	6	15	25	9	13	6	3	3	0	80
	率(%)	7.5	18.8	31.3	11.3	16.3	7.5	3.8	3.8	0.0	100.0
その他	人数(人)	27	61	69	53	33	14	8	9	1	275
	率(%)	9.8	22.2	25.1	19.3	12.0	5.1	2.9	3.3	0.4	100.0
不明	人数(人)	2	5	4	2	1	0	1	0	0	15
	率(%)	13.3	33.3	26.7	13.3	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	100.0
計	人数(人)	151	387	469	308	210	127	80	123	1	1,856
	率(%)	8.1	20.9	25.3	16.6	11.3	6.8	4.3	6.6	0.1	100.0

(注) 回答者数は、奨学金を受給している件数

第9-6表 専攻別の奨学金非受給者の学習・研究時間

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
人文科学	人数(人)	49	94	73	57	31	7	7	6	2	326
	率(%)	15.0	28.8	22.4	17.5	9.5	2.1	2.1	1.8	0.6	100.0
社会科学	人数(人)	130	242	205	126	64	28	13	17	1	826
	率(%)	15.7	29.3	24.8	15.3	7.7	3.4	1.6	2.1	0.1	100.0
理学	人数(人)	8	11	16	13	6	4	2	5	0	65
	率(%)	12.3	16.9	24.6	20.0	9.2	6.2	3.1	7.7	0.0	100.0
工学	人数(人)	31	58	47	67	30	10	15	14	0	272
	率(%)	11.4	21.3	17.3	24.6	11.0	3.7	5.5	5.1	0.0	100.0
農学	人数(人)	1	7	4	7	4	4	3	2	0	32
	率(%)	3.1	21.9	12.5	21.9	12.5	12.5	9.4	6.3	0.0	100.0
医・歯学	人数(人)	1	1	3	3	6	6	3	4	1	28
	率(%)	3.6	3.6	10.7	10.7	21.4	21.4	10.7	14.3	3.6	100.0
薬学	人数(人)	1	1	0	1	0	0	0	1	0	4
	率(%)	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	100.0
家政	人数(人)	2	2	0	11	0	2	1	0	0	18
	率(%)	11.1	11.1	0.0	61.1	0.0	11.1	5.6	0.0	0.0	100.0
教育	人数(人)	19	31	15	19	13	8	3	3	0	111
	率(%)	17.1	27.9	13.5	17.1	11.7	7.2	2.7	2.7	0.0	100.0
その他	人数(人)	97	153	143	108	66	17	9	1	0	594
	率(%)	16.3	25.8	24.1	18.2	11.1	2.9	1.5	0.2	0.0	100.0

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計
不明	人数(人)	3	7	7	4	1	0	1	0	0	23
	率(%)	13.0	30.4	30.4	17.4	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	100.0
計	人数(人)	342	607	513	416	221	86	57	53	4	2,299
	率(%)	14.9	26.4	22.3	18.1	9.6	3.7	2.5	2.3	0.2	100.0

(注) 回答者数は、奨学金を受給していない件数

奨学金受給者の受給金額と学習・研究時間(第9-7表)を見ると、奨学金の非受給者2,299人においては、週21時間未満の回答がおよそ6割であり、中でも、週7時間～14時間未満の607人(26.4%)が最も回答が多い。

奨学金の受給金額が7万円未満を見ると、学習・研究時間は、週14時間から21時間未満が「5万円未満」の28.7%(103人)、「5万円以上7万円未満」の29.3%(296人)と最も多い。

一方、奨学金の受給金額が7万円以上を見ると、学習・研究時間は、週49時間以上と回答する者の数は「7万円未満」より明らかに多い。

第9-7表 奨学金受給者の受給金額と学習・研究時間

区分		7時間未満	7～14時間未満	14～21時間未満	21～28時間未満	28～35時間未満	35～42時間未満	42～49時間未満	49時間以上	不明	計	
奨学金なし	人数(人)	342	607	513	416	221	86	57	53	4	2,299	
	率(%)	14.9	26.4	22.3	18.1	9.6	3.7	2.5	2.3	0.2	100.0	
奨学金あり	5万円未満	人数(人)	27	80	103	65	40	18	9	17	0	359
		率(%)	7.5	22.3	28.7	18.1	11.1	5.0	2.5	4.7	0.0	100.0
	5万円以上7万円未満	人数(人)	108	261	296	160	97	40	27	21	1	1,011
		率(%)	10.7	25.8	29.3	15.8	9.6	4.0	2.7	2.1	0.1	100.0
	7万円以上9万円未満	人数(人)	7	23	46	53	47	50	31	57	0	314
		率(%)	2.2	7.3	14.6	16.9	15.0	15.9	9.9	18.2	0.0	100.0
	9万円以上11万円未満	人数(人)	4	12	14	14	13	7	3	4	0	71
		率(%)	5.6	16.9	19.7	19.7	18.3	9.9	4.2	5.6	0.0	100.0
11万円以上	人数(人)	5	11	10	16	13	12	10	24	0	101	
	率(%)	5.0	10.9	9.9	15.8	12.9	11.9	9.9	23.8	0.0	100.0	

## 10. 宿舍

宿舍の形態（第10-1表）としては、「民間アパート・マンション等」に居住する者が、3,082人（74.2%）と最も多い。

第10-1表 宿舍の形態

区分		民間アパート・マンション等	大学・学校の留学生用宿舎	大学・学校の一般学生寮	県・市・財団法人の留学生宿舎	公営住宅等の一般公的宿舎	企業の社員寮	ホームステイ	その他	不明	計	
大学	国立	人数(人)	433	138	84	44	50	11	4	9	1	774
		率(%)	55.9	17.8	10.9	5.7	6.5	1.4	0.5	1.2	0.1	100.0
	公立	人数(人)	62	10	5	4	6	1	0	3	0	91
		率(%)	68.1	11.0	5.5	4.4	6.6	1.1	0.0	3.3	0.0	100.0
	私立	人数(人)	1,773	168	138	52	61	38	20	19	6	2,275
		率(%)	77.9	7.4	6.1	2.3	2.7	1.7	0.9	0.8	0.3	100.0
	大学計	人数(人)	2,268	316	227	100	117	50	24	31	7	3,140
		率(%)	72.2	10.1	7.2	3.2	3.7	1.6	0.8	1.0	0.2	100.0
短期大学	人数(人)	117	13	15	2	1	0	3	2	0	153	
	率(%)	76.5	8.5	9.8	1.3	0.7	0.0	2.0	1.3	0.0	100.0	
専修学校	人数(人)	684	36	45	15	20	9	18	9	4	840	
	率(%)	81.4	4.3	5.4	1.8	2.4	1.1	2.1	1.1	0.5	100.0	
不明	人数(人)	13	1	3	0	2	2	0	1	0	22	
	率(%)	59.1	4.5	13.6	0.0	9.1	9.1	0.0	4.5	0.0	100.0	
計	人数(人)	3,082	366	290	117	140	61	45	43	11	4,155	
	率(%)	74.2	8.8	7.0	2.8	3.4	1.5	1.1	1.0	0.3	100.0	

第10-2表 在籍学校別の宿舍形態の率（年度比較表）

（単位％）

区分		民間アパート・マンション等	大学・学校の留学生用宿舎	大学・学校の一般学生寮	県・市・財団法人の留学生宿舎	公営住宅等の一般公的宿舎	企業の社員寮	ホームステイ	その他	不明	計	
大学	国立	平成17年	55.9	17.8	10.9	5.7	6.5	1.4	0.5	1.2	0.1	100.0
		平成15年	53.2	17.6	9.5	5.7	9.0	2.2	0.6	1.7	0.5	100.0
		平成13年	53.5	15.2	6.4	5.4	11.4	3.7	1.1	2.7	0.6	100.0
	公立	平成17年	68.1	11.0	5.5	4.4	6.6	1.1	0.0	3.3	0.0	100.0
		平成15年	58.9	16.6	3.3	7.9	5.3	4.0	1.3	0.7	2.0	100.0
		平成13年	61.6	12.2	7.0	6.1	6.1	5.2	-	0.9	0.9	100.0
	私立	平成17年	77.9	7.4	6.1	2.3	2.7	1.7	0.9	0.8	0.3	100.0
		平成15年	76.1	7.8	3.0	4.3	2.7	2.0	1.5	1.8	0.9	100.0
		平成13年	70.8	6.8	6.0	2.6	3.9	5.9	0.9	2.6	0.5	100.0
	大学計	平成17年	72.2	10.1	7.2	3.2	3.7	1.6	0.8	1.0	0.2	100.0
		平成15年	67.2	11.7	5.3	5.0	5.0	2.2	1.2	1.7	0.8	100.0
		平成13年	62.0	11.2	6.2	4.1	7.7	4.8	0.9	2.5	0.6	100.0
短期大学	平成17年	76.5	8.5	9.8	1.3	0.7	0.0	2.0	1.3	0.0	100.0	
	平成15年	80.3	7.1	4.6	2.1	0.8	0.8	0.4	3.8	-	100.0	
	平成13年	56.6	24.4	8.7	-	2.4	0.8	2.4	4.7	-	100.0	
専修学校	平成17年	81.4	4.3	5.4	1.8	2.4	1.1	2.1	1.1	0.5	100.0	
	平成15年	83.6	5.8	3.1	0.8	2.1	1.0	1.3	1.7	0.5	100.0	
	平成13年	78.2	3.4	4.6	2.5	4.2	2.5	1.3	2.5	0.8	100.0	
計	平成17年	74.2	8.8	7.0	2.8	3.4	1.5	1.1	1.0	0.3	100.0	
	平成15年	70.7	10.5	4.9	4.1	4.3	1.9	1.2	1.8	0.7	100.0	
	平成13年	63.3	11.1	6.2	3.8	7.0	4.4	1.0	2.6	0.6	100.0	

一人当たりの専有面積（第10-3表）は、10㎡（約6畳）未満の者が全体の7割近く（68.0%）を占めており、15㎡（約8～9畳）未満では全体の約9割（87.9%）を占めている。

部屋の設備（第10-4表）、つまり「キッチン」、「バス・シャワー」、「トイレ」の有無を見ると、7割以上の者が個別のキッチン（79.4%）、バス・シャワー（75.9%）、トイレ（80.8%）付きの部屋に居住している。また、部屋にはないが共同である者はそれぞれ約2割弱となっている。

第10-3表 一人当たりの専有面積

区分	5㎡未満	5～7.5㎡未満	7.5～10㎡未満	10～12.5㎡未満	12.5～15㎡未満	15～17.5㎡未満	17.5～20㎡未満	20～25㎡未満	25㎡以上	不明	計
人数(人)	458	876	1,491	481	348	173	137	91	80	20	4,155
率(%)	11.0	21.1	35.9	11.6	8.4	4.2	3.3	2.2	1.9	0.5	100.0

第10-4表 部屋の設備

区分		部屋にある	部屋にはないが共同である	なし	不明
キッチン	人数(人)	3,298	721	96	40
	率(%)	79.4	17.4	2.3	1.0
バス・シャワー	人数(人)	3,154	825	132	44
	率(%)	75.9	19.9	3.2	1.1
トイレ	人数(人)	3,359	750	-	46
	率(%)	80.8	18.1	-	1.1

(注)「トイレ」の設問には「なし」の選択肢はない

同居人の有無（第10-5表）については、日本で単身生活をしていると回答した者は、2,124人（51.1%）で、全体の半数以上となっている。

第10-5表 同居人の有無

区分	単身	同居	不明	計
人数(人)	2,124	2,019	12	4,155
率(%)	51.1	48.6	0.3	100.0

同居人がいると回答した者のうち、同居人（第10-6表）が「2人」と回答した者が853人（42.2%）で最も多く、次いで、「1人」と回答した者が839人（41.6%）となっている。

第10-6表 同居人の数

区分	1人	2人	3人	4人	5人以上	不明	計
人数(人)	839	853	208	78	29	12	2,019
率(%)	41.6	42.2	10.3	3.9	1.4	0.6	100.0

同居人の種類（第10-7表）を見ると、「外国人留学生」と回答した者が1,120人で5割以上（55.5%）で最も多く、次いで「配偶者又は家族」の650人（32.2%）となっている。

第10-7表 同居者の種類

区分	配偶者又は家族	外国人留学生	日本人学生	その他	不明	計
人数(人)	650	1,120	40	170	39	2,019
率(%)	32.2	55.5	2.0	8.4	1.9	100.0

宿舎の形態による単身・同居の状況（第 10-8 表）を見ると、「単身居住者」「同居者のいる者」のどちらも民間のアパートやマンション等に 7 割以上が居住している。

また、「大学・学校の留学生用宿舎」、「大学・学校の一般学生宿舎」、「県・市・財団法人の留学生宿舎」では、「単身居住者」の割合が大きい。

第 10-8 表 宿舎の形態による単身・同居の状況

区分		民間アパート・マンション等	大学・学校の留学生用宿舎	大学・学校の一般学生寮	県・市・財団法人の留学生宿舎	公営住宅等の一般公的宿舎	企業の社員寮	ホームステイ	その他	不明	計
単身	人数(人)	1,515	223	197	92	31	42	6	14	4	2,124
	率(%)	71.3	10.5	9.3	4.3	1.5	2.0	0.3	0.7	0.2	100.0
同居	人数(人)	1,565	141	90	25	109	18	38	28	5	2,019
	率(%)	77.5	7.0	4.5	1.2	5.4	0.9	1.9	1.4	0.2	100.0
不明		2	2	3	0	0	1	1	1	2	12

居住地域別の住居費（第 10-9 表）を見ると、関東地方が平均月額 36,000 円と全国で最も高くなっている。一方、平均月額が低いのは東北地方で 22,000 円となっている。なお、東京のみでは 39,000 円である。

第 10-9 表 居住地域別の住居費（年度比較表）

区分	調査年度	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	東京	全国平均
住居費(千円)	平成 17 年	28	22	36	26	30	25	24	23	39	31
	平成 15 年	26	23	34	24	30	23	24	23	38	30
	平成 13 年	25	20	34	23	28	22	22	23	36	29

宿舎入居にかかる敷金・礼金、または保証金等の金額（第 10-10 表）は「5 万円未満」と回答した者が 1,087 人（26.2%）と最も多く、次いで「なし」と回答した者が 951 人（22.9%）、「5 万円～10 万円未満」が 863 人（20.8%）となっている。

第 10-10 表 宿舎入居にかかる敷金・礼金、保証金等の金額

区分	なし	5 万円未満	5～10 万円未満	10～20 万円未満	20～30 万円未満	30～40 万円未満	40～50 万円未満	50 万円以上	不明	計
人数(人)	951	1,087	863	773	306	69	33	11	62	4,155
率(%)	22.9	26.2	20.8	18.6	7.4	1.7	0.8	0.3	1.5	100.0

敷金・礼金、保証金等と宿舎の形態別（第 10-11 表、28 ページ）を見ると、学生用等の寮、ホームステイ等は、敷金・保証金がないか、5 万円未満と低く抑えられている一方で、民間アパートやマンションに居住する者は、6 割以上が、一人当たり 5 万円以上支出しており、敷金が 5 万円から 20 万円未満の範囲に約半数が分布している。

第 10-11 表 敷金・礼金、保証金等と宿舎の形態別

区分		なし	5万円未満	5～10万円未満	10～20万円未満	20～30万円未満	30～40万円未満	40～50万円未満	50万円以上	不明	計
民間アパート・マンション等	人数(人)	462	709	750	723	295	67	32	10	34	3,082
	率(%)	15.0	23.0	24.3	23.5	9.6	2.2	1.0	0.3	1.1	100.0
大学・学校の留学生用宿舎	人数(人)	164	145	38	5	3	1	0	1	9	366
	率(%)	44.8	39.6	10.4	1.4	0.8	0.3	0.0	0.3	2.5	100.0
大学・学校の一般学生寮	人数(人)	149	95	19	15	3	0	0	0	9	290
	率(%)	51.4	32.8	6.6	5.2	1.0	0.0	0.0	0.0	3.1	100.0
県・市・財団法人の留学生宿舎	人数(人)	45	52	14	3	1	0	0	0	2	117
	率(%)	38.5	44.4	12.0	2.6	0.9	0.0	0.0	0.0	1.7	100.0
公営住宅等の一般公的宿舎	人数(人)	28	57	32	19	3	0	0	0	1	140
	率(%)	20.0	40.7	22.9	13.6	2.1	0.0	0.0	0.0	0.7	100.0
企業の社員寮	人数(人)	45	12	1	2	0	0	0	0	1	61
	率(%)	73.8	19.7	1.6	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	100.0
ホームステイ	人数(人)	31	4	4	2	0	1	1	0	2	45
	率(%)	68.9	8.9	8.9	4.4	0.0	2.2	2.2	0.0	4.4	100.0
その他	人数(人)	26	12	3	0	0	0	0	0	13	54
	率(%)	48.1	22.2	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.1	100.0

宿舎に入居の際の保証人の要否(第 10-12 表)について、「保証人を求められた」と回答した者は、2,974 人で全体の約 7 割 (71.6%) を超えている。

第 10-12 表 宿舎に入居の際の保証人の要否

区分	求められた	求められていない	不明	計
人数(人)	2,974	1,131	50	4,155
率(%)	71.6	27.2	1.2	100.0

宿舎の形態別の保証人の要否(第 10-13 表)を見ると、民間のアパート・マンション等に居住する学生のうち、約 8 割が「保証人を求められた」(2,466 人、80.0%) と回答している。一方、「大学・学校の留学生用宿舎」や「大学・学校の一般学生寮」に住む学生では、「保証人が求められた」と回答したのはそれぞれ 4 割弱である。

第 10-13 表 宿舎の形態別、保証人の要否

区分		民間アパート・マンション等	大学・学校の留学生用宿舎	大学・学校の一般学生寮	県・市・財団法人の留学生宿舎	公営住宅等の一般公的宿舎	企業の社員寮	ホームステイ	その他	計
保証人必要	人数(人)	2,466	143	115	63	112	36	13	26	2,974
	率(%)	80.0	39.1	39.7	53.8	80.0	59.0	28.9	48.1	71.6
保証人不要	人数(人)	602	214	162	53	26	22	30	22	1,131
	率(%)	19.5	58.5	55.9	45.3	18.6	36.1	66.7	40.7	27.2
不明	人数(人)	14	9	13	1	2	3	2	6	50
	率(%)	0.5	2.5	4.5	0.9	1.4	4.9	4.4	11.1	1.2
合計	人数(人)	3,082	366	290	117	140	61	45	54	4,155
	率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

宿舎の保証人の種類(第 10-14 表、29 ページ)は、「日本人の知人」と回答した者が 1,148 人 (38.6%) と最も多く、次いで「大学・学校等(代表者)」が 746 人 (25.1%)、「親族」が 377 人 (12.7%)、「大学・学校の指導教員」が 319 人 (10.7%) となっている。

第 10-14 表 宿舎の保証人の種類

区分	大学・学校等 (代表者)	大学・学校の 指導教員	国際交流 団体 (代表者)	日本人の 知人	日本人以外 の知人	親族	その他	不明	計
人数(人)	746	319	89	1,148	179	377	88	28	2,974
率(%)	25.1	10.7	3.0	38.6	6.0	12.7	3.0	0.9	100.0

学校までの所要通学時間(第 10-15 表)については、全国平均で「30分以内」の回答が最も多く、約6割にあたる2,466人(59.4%)となっており、順に「1時間以内」が1,063人(25.6%)、「1時間30分以内」が444人(10.7%)等となっている。東京在住では、1時間以内と回答した者が697人(73.4%)で約7割を超えている。

第 10-15 表 学校までの所要通学時間

区分		30分以内	1時間以内	1時間30分 以内	2時間以内	2時間以上	不明	計
全国平均	人数(人)	2,466	1,063	444	141	39	2	4,155
	率(%)	59.4	25.6	10.7	3.4	0.9	0.0	100.0
東京在住	人数(人)	348	349	167	62	22	2	950
	率(%)	36.6	36.7	17.6	6.5	2.3	0.2	100.0

## 11. 授業料等の保証人

大学・学校の授業料等の保証人の要否（第 11-1 表）は、「求められた」と回答した者が 2,571 人（61.9%）で、「求められなかった」と回答したのが、1,563 人（37.6%）となっており、6 割以上が保証人を求められている。

第 11-1 表 授業料等の保証人の要否

区分	求められた	求められていない	不明	計
人数（人）	2,571	1,563	21	4,155
率（%）	61.9	37.6	0.5	100.0

在籍学校別の保証人要否（第 11-2 表）を見ると、国立大学は約 51.0%（395 人）で、他の学校と比較して割合が低くなっている。

第 11-2 表 在籍学校別の保証人要否

区分		保証人要	保証人不要	不明	計	
大学	国立	人数(人)	395	376	3	774
		率(%)	51.0	48.6	0.4	100.0
	公立	人数(人)	67	24	0	91
		率(%)	73.6	26.4	0.0	100.0
	私立	人数(人)	1,445	817	13	2,275
		率(%)	63.5	35.9	0.6	100.0
大学計	人数(人)	1,907	1,217	16	3,140	
	率(%)	60.7	38.8	0.5	100.0	
短期大学	人数(人)	109	44	0	153	
	率(%)	71.2	28.8	0.0	100.0	
専修学校	人数(人)	541	294	5	840	
	率(%)	64.4	35.0	0.6	100.0	
不明	人数(人)	14	8	0	22	
	率(%)	63.6	36.4	0.0	100.0	
計	人数(人)	2,571	1,563	21	4,155	
	率(%)	61.9	37.6	0.5	100.0	

また、授業料の保証人の種類（第 11-3 表）としては、「親族」が 1,270 人（49.4%）と最も多く、ほぼ半数に達している。次いで「日本人の知人」が 656 人（25.5%）「大学・学校の指導教員」が 247 人（9.6%）となっている。

第 11-3 表 授業料の保証人の種類

区分	大学・学校等 (代表者)	大学・学校の 指導教員	国際交流団 体(代表者)	日本人 の知人	日本人以外 の知人	親族	その他	不明	計
人数(人)	195	247	36	656	111	1,270	37	19	2,571
率(%)	7.6	9.6	1.4	25.5	4.3	49.4	1.4	0.7	100.0

## 12. 健康

大学・学校に入学してからの病気経験の有無とその時の対処の仕方（第 12-1 表）として、「病院に行った」が 2,244 人（54.0%）と最も多く、次いで「薬局で薬を買って治した」が 1,550 人（37.3%）、「学校の保健管理センターや医務室に行った」が 802 人（19.3%）と続いている。なお、「病気やけがをしたことがない」の回答が 1,085 人（26.1%）となっている。

第 12-1 表 大学・学校に入学してからの病気経験の有無とその時の対処の仕方（複数回答設問）

区分	病気やけがをしたことがない	学校の保健管理センターや医務室に行った	病院に行った	薬局で薬を買って治した	病院にも薬局にも行かないで我慢した	その他	不明
人数（人）	1,085	802	2,244	1,550	426	49	39
率（%）	26.1	19.3	54.0	37.3	10.3	1.2	0.9

健康保険加入状況（第 12-2 表）については、3,876 人（93.3%）が何らかの健康保険に加入していると回答している。

加入している健康保険の種類（第 12-3 表）については、健康保険に加入している学生の 95.4%にあたる 3,697 人が日本の国民健康保険に加入しており、その他に、海外旅行・留学保険に 153 人（3.9%）、親や兄弟、配偶者などの家族が加入している健康保険に 120 人（3.1%）、所属する機関の健康保険に 93 人（2.4%）が加入している。

居住地域別国民健康保険の加入率（第 12-4 表）は、関東地方と近畿地方で 9 割を下回っているものの、全国的には、約 9 割が加入している。

年度別の居住地域別国民健康保険の加入率（第 12-5 表）を見ると、全国的にやや減少傾向にある。

第 12-2 表 健康保険加入状況

区分	健康保険に加入している	健康保険に加入していない	不明	計
人数（人）	3,876	262	17	4,155
率（%）	93.3	6.3	0.4	100.0

第 12-3 表 加入している健康保険の種類（複数回答設問）

区分	（日本の）国民健康保険	海外旅行・留学保険	親や兄弟、配偶者などの家族が加入している健康保険	所属する機関の健康保険	その他	不明	計
人数（人）	3,697	153	120	93	22	49	3,876
率（%）	95.4	3.9	3.1	2.4	0.6	1.3	100.0

第 12-4 表 居住地域別国民健康保険の加入率

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数	65	103	1,671	522	656	180	57	443	3,697
率（%）	95.6	93.6	86.9	92.1	88.6	94.2	90.5	90.0	89.0

第 12-5 表 年度別の居住地域別国民健康保険の加入率（年度比較表）

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
平成 17 年	95.6	93.6	86.9	92.1	88.6	94.2	90.5	90.0	89.0
平成 15 年	96.9	83.7	89.3	95.1	93.8	96.8	98.6	91.3	91.6
平成 13 年	98.0	94.9	90.4	96.3	94.7	100.0	95.7	94.4	93.2

国民健康保険の保険料月額(第12-6表)を全体で見ると、「1,000円～1,500円未満」が1,231人(33.3%)と最も多い。居住地域別にみると、北海道・東北地方・近畿地方では「1,500円～2,000円未満」、その他の地域では「1,000円～1,500円未満」の割合がそれぞれ一番高い。

第12-6表 国民健康保険の保険料月額 (地域別)

区分		無料	500円 未満	500円 ～1,000 円未満	1,000円 ～1,500 円未満	1,500円 ～2,000 円未満	2,000円 ～2,500 円未満	2,500円 ～3,000 円未満	3,000円 ～3,500 円未満	3,500円 以上	不明	計
北海道	人数(人)	0	1	3	21	28	1	8	0	3	0	65
	率(%)	0.0	1.5	4.6	32.3	43.1	1.5	12.3	0.0	4.6	0.0	100.0
東北	人数(人)	1	7	5	29	32	21	3	0	5	0	103
	率(%)	1.0	6.8	4.9	28.2	31.1	20.4	2.9	0.0	4.9	0.0	100.0
関東	人数(人)	15	42	438	518	207	113	91	85	111	51	1,671
	率(%)	0.9	2.5	26.2	31.0	12.4	6.8	5.4	5.1	6.6	3.1	100.0
中部	人数(人)	3	12	35	234	102	48	20	18	41	9	522
	率(%)	0.6	2.3	6.7	44.8	19.5	9.2	3.8	3.4	7.9	1.7	100.0
近畿	人数(人)	6	18	21	169	307	49	17	18	36	15	656
	率(%)	0.9	2.7	3.2	25.8	46.8	7.5	2.6	2.7	5.5	2.3	100.0
中国	人数(人)	6	6	12	76	34	19	4	3	10	10	180
	率(%)	3.3	3.3	6.7	42.2	18.9	10.6	2.2	1.7	5.6	5.6	100.0
四国	人数(人)	0	0	8	28	11	1	2	0	5	2	57
	率(%)	0.0	0.0	14.0	49.1	19.3	1.8	3.5	0.0	8.8	3.5	100.0
九州	人数(人)	2	7	21	156	133	54	22	8	24	16	443
	率(%)	0.5	1.6	4.7	35.2	30.0	12.2	5.0	1.8	5.4	3.6	100.0
計	人数(人)	33	93	543	1,231	854	306	167	132	235	103	3,697
	率(%)	0.9	2.5	14.7	33.3	23.1	8.3	4.5	3.6	6.4	2.8	100.0

(注) 回答者数は国民健康保険加入者数

また、国民健康保険保険料負担分布の年度比較(第12-7表)を見ると、前回(平成15年度)と前々回(平成13年)の調査と比較すると、国民健康保険料が「無料から1,500円未満」の回答者数の割合が減少している。

第12-7表 国民健康保険保険料負担分布の年度比較

区分		無料	500円 未満	500円～ 1,000円 未満	1,000円 ～1,500 円未満	*無料か ら1,500 円未満	1,500円 ～2,000 円未満	2,000円 ～2,500 円未満	2,500円 ～3,000 円未満	3,000円 ～3,500 円未満	3,500円 以上	計
平成17年	人数(人)	33	93	543	1,231	1,900	854	306	167	132	235	3,697
	率(%)	0.9	2.5	14.7	33.3	51.4	23.1	8.3	4.5	3.6	6.4	100.0
平成15年	人数(人)	69	59	478	1,279	1,885	834	319	176	85	225	3,494
	率(%)	2.0	1.7	13.7	36.6	53.9	23.9	9.1	5.0	2.4	6.4	100.0
平成13年	人数(人)	47	48	370	785	1,250	450	183	112	72	164	2,231
	率(%)	2.1	2.2	16.6	35.2	56.0	20.2	8.2	5.0	3.2	7.4	100.0

(注) 回答者数は国民健康保険加入者数

健康保険未加入の理由(第12-8表)を見ると、「保険料が高すぎる」の回答が5割以上(53.4%)であり、「保険が必要だと思わない」の回答も約3割(28.6%)にあたる。

第12-8表 健康保険未加入の理由

区分		保険が必要だ と思わない	保険料が高すぎ る	国民健康保険へ の加入の仕方が わからない	その他	不明	計
健康保険に全く 加入していない	人数(人)	75	140	18	16	13	262
	率(%)	28.6	53.4	6.9	6.1	5.0	100.0

(注) 回答者数は、国民健康保険未加入者

代替保険の種類(第 12-9 表)のとおり、日本の国民健康保険に未加入だが、別の保険に加入していると回答した者は 179 人いるが、大半は別の健康保険に加入しており、「家族の健康保険」が 69 人 (38.5%) で最も多い。また、「海外旅行・留学保険」が 48 人 (26.8%) となっている。

第 12-9 表 代替保険の種類 (複数回答設問)

区分	海外旅行・ 留学保険	家族の健康保険	所属機関の 健康保険	その他	不明	計
人数(人)	48	69	15	4	49	179
率 (%)	26.8	38.5	8.4	2.2	27.4	100.0

(注) 回答者数は、健康保険は持っているが日本の国民健康保険に加入していない回答者の数を 100 とした割合

### 13.卒業後の進路希望等

卒業後の進路希望（第 13-1 表）として、「日本において就職希望」と回答した者が 2,338 人（56.3%）で最も多く、次いで「日本において進学希望」が 2,242 人（54.0%）となっている。

第 13-1 表 卒業後の進路希望（全体）（複数回答設問）

区分	日本において 進学希望	日本において 就職希望	出身国において 進学希望	出身国において 就職希望	日本・出身国以 外の国において 進学希望	日本・出身国以 外の国において 就職希望	まだ決めてい ない	不明
人数(人)	2,242	2,338	206	1,615	660	416	237	73
率(%)	54.0	56.3	5.0	38.9	15.9	10.0	5.7	1.8

在籍段階別卒業後の進路希望（第 13-2 表）を見ると、「大学院博士課程」、「大学院レベルの研究生」では「出身国において就職希望」が最も多く、「大学院修士課程」、「学部正規課程」では、「日本において就職を希望」が最も多い。他の課程では、「日本において進学希望」が最も多い回答となっている。

第 13-2 表 在籍段階別卒業後の進路希望（複数回答設問）

区分	日本において 進学希望	日本において 就職希望	出身国において 進学希望	出身国において 就職希望	日本・出身国以 外の国におい て進学希望	日本・出身国以 外の国におい て就職希望	まだ決めてい ない	不明	
大学院 博士課程	人数(人) 率(%)	40 12.3	168 51.5	16 4.9	217 66.6	29 8.9	56 17.2	24 7.4	6 1.8
大学院 修士課程	人数(人) 率(%)	234 40.3	331 57.0	31 5.3	313 53.9	74 12.7	62 10.7	28 4.8	10 1.7
大学院レベル の研究生	人数(人) 率(%)	16 45.7	19 54.3	0 0.0	20 57.1	10 28.6	3 8.6	3 8.6	0 0.0
学部 正規課程	人数(人) 率(%)	1,268 58.1	1,345 61.6	112 5.1	842 38.6	455 20.8	225 10.3	123 5.6	35 1.6
学部レベルの 研究生・聴講生	人数(人) 率(%)	12 60.0	6 30.0	6 30.0	8 40.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0
短期大学 正規課程	人数(人) 率(%)	115 75.2	75 49.0	7 4.6	42 27.5	18 11.8	11 7.2	3 2.0	2 1.3
専修学校 専門課程	人数(人) 率(%)	548 65.2	384 45.7	33 3.9	168 20.0	67 8.0	56 6.7	55 6.5	19 2.3
合計	人数(人) 率(%)	2,233 53.7	2,328 56.0	205 4.9	1,610 38.7	657 15.8	413 9.9	236 5.7	73 1.8

専攻分野別卒業後の進路希望（第 13-3 表、35 ページ）を見ると、「農学」、「医・歯学」では「出身国において就職希望」との回答が最も多く、「人文科学」、「社会科学」、「工学」では、「日本において就職希望」が最も多い。「薬学」では、「日本において進学希望」と「出身国において就職希望」が同数であった。他の分野では、「日本において進学希望」が最も多い回答となっている。

第 13-3 表 専攻分野別卒業後の進路希望 (複数回答設問)

区分		日本において	日本において	出身国において	出身国において	日本・出身国	日本・出身国	まだ決めてい	不明
		進学希望	就職希望	進学希望	就職希望	以外の国にお	以外の国にお	ない	
人文科学	人数(人)	350	364	44	261	94	52	38	12
	率(%)	54.3	56.5	6.8	40.5	14.6	8.1	5.9	1.9
社会科学	人数(人)	866	1,024	71	677	319	177	87	30
	率(%)	52.6	62.2	4.3	41.1	19.4	10.8	5.3	1.8
理学	人数(人)	54	50	4	47	27	17	11	3
	率(%)	47.8	44.2	3.5	41.6	23.9	15.0	9.7	2.7
工学	人数(人)	220	299	20	181	68	62	30	8
	率(%)	46.9	63.8	4.3	38.6	14.5	13.2	6.4	1.7
農学	人数(人)	34	35	5	45	12	7	4	1
	率(%)	44.2	45.5	6.5	58.4	15.6	9.1	5.2	1.3
医・歯学	人数(人)	12	30	0	44	8	12	5	2
	率(%)	17.9	44.8	0.0	65.7	11.9	17.9	7.5	3.0
薬学	人数(人)	7	4	0	7	2	1	1	0
	率(%)	46.7	26.7	0.0	46.7	13.3	6.7	6.7	0.0
家政	人数(人)	18	11	2	7	3	1	3	1
	率(%)	69.2	42.3	7.7	26.9	11.5	3.8	11.5	3.8
教育	人数(人)	106	94	14	104	21	14	7	0
	率(%)	55.5	49.2	7.3	54.5	11.0	7.3	3.7	0.0
その他	人数(人)	566	417	45	237	103	70	50	16
	率(%)	65.1	48.0	5.2	27.3	11.9	8.1	5.8	1.8
計	人数(人)	2,233	2,328	205	1,610	657	413	236	73
	率(%)	53.7	56.0	4.9	38.7	15.8	9.9	5.7	1.8

「日本において就職希望」回答者の就職希望職種(第 13-4 表)としては、「海外業務」と回答した者が、1,170 人(50.0%)で最も多く、次いで「貿易業務」が 1,116 人(47.7%)、「翻訳・通訳」が 892 人(38.2%)となっている。

第 13-4 表 「日本において就職希望」回答者の就職希望職種 (複数回答設問)

区分	翻訳・通訳	技術開発	販売・営業	海外業務	学校などの教育	調査研究	経営・管理業務	貿易業務	情報処理	設計	その他	不明
人数(人)	892	336	300	1,170	351	158	660	1,116	294	95	45	29
率(%)	38.2	14.4	12.8	50.0	15.0	6.8	28.2	47.7	12.6	4.1	1.9	1.2

(注) 回答者数は、第 13-1 表の「日本において就職希望」の回答者数

在籍段階別日本での就職希望職種(第 13-5 表)を見ると、「大学院博士課程」は「学校などの教育」が最も多く、「技術開発」、「調査研究」などの高度な専門知識を活かせると思われる分野をあげている。他の在籍段階では、「海外業務」、「貿易業務」、「通訳・翻訳」が多い。

第 13-5 表 在籍段階別日本での就職希望職種 (複数回答設問)

区分	翻訳・通訳	技術開発	販売・営業	海外業務	学校などの教育	調査研究	経営・管理業務	貿易業務	情報処理	設計	その他	不明
大学院博士課程	人数(人)	28	58	8	53	77	56	10	25	17	12	1
	率(%)	16.7	34.5	4.8	31.5	45.8	33.3	6.0	14.9	10.1	7.1	0.6
大学院修士課程	人数(人)	117	59	34	186	72	40	83	146	23	16	2
	率(%)	35.3	17.8	10.3	56.2	21.8	12.1	25.1	44.1	6.9	4.8	0.6
大学院レベルの研究生	人数(人)	4	4	2	9	3	3	8	9	2	1	0
	率(%)	21.1	21.1	10.5	47.4	15.8	15.8	42.1	47.4	10.5	5.3	0.0
学部正規課程	人数(人)	572	136	189	764	162	53	427	754	138	44	31
	率(%)	42.5	10.1	14.1	56.8	12.0	3.9	31.7	56.1	10.3	3.3	2.3
学部レベルの研究生・聴講生	人数(人)	2	2	2	3	1	0	0	2	0	0	0
	率(%)	33.3	33.3	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

区分		翻訳・通訳	技術開発	販売・営業	海外業務	学校などの教育	調査研究	経営・管理業務	貿易業務	情報処理	設計	その他	不明
短期大学 正規課程	人数(人)	38	5	12	43	8	0	24	40	7	3	1	3
	率(%)	50.7	6.7	16.0	57.3	10.7	0.0	32.0	53.3	9.3	4.0	1.3	4.0
専修学校 専門課程	人数(人)	123	72	52	109	24	6	105	136	107	19	10	6
	率(%)	32.0	18.8	13.5	28.4	6.3	1.6	27.3	35.4	27.9	4.9	2.6	1.6
計	人数(人)	884	336	299	1,167	347	158	657	1,112	294	95	45	29
	率(%)	38.0	14.4	12.8	50.1	14.9	6.8	28.2	47.8	12.6	4.1	1.9	1.2

(注) 回答者数は、第13-1表の「日本において就職希望」の回答者数

専攻分野別就職希望職種（第13-6表）を見ると、「理学」、「工学」、「薬学」では「技術開発」が最も多い。「人文科学」、「教育」は、「翻訳・通訳」が最も多く、「医・歯学」を除く他の分野では、「海外業務」が多い回答となっている。

第13-6表 専攻分野別就職希望職種（複数回答設問）

区分		翻訳・通訳	技術開発	販売・営業	海外業務	学校などの教育	調査研究	経営・管理業務	貿易業務	情報処理	設計	その他	不明
人文科学	人数(人)	203	12	48	191	86	29	87	186	25	3	5	4
	率(%)	55.8	3.3	13.2	52.5	23.6	8.0	23.9	51.1	6.9	0.8	1.4	1.1
社会科学	人数(人)	395	46	159	628	124	48	381	618	64	16	14	15
	率(%)	38.6	4.5	15.5	61.3	12.1	4.7	37.2	60.4	6.3	1.6	1.4	1.5
理学	人数(人)	17	18	9	16	8	9	11	15	12	2	1	0
	率(%)	34.0	36.0	18.0	32.0	16.0	18.0	22.0	30.0	24.0	4.0	2.0	0.0
工学	人数(人)	41	191	11	96	25	28	40	47	109	49	3	1
	率(%)	13.7	63.9	3.7	32.1	8.4	9.4	13.4	15.7	36.5	16.4	1.0	0.3
農学	人数(人)	11	13	1	17	7	17	2	5	0	0	0	0
	率(%)	31.4	37.1	2.9	48.6	20.0	48.6	5.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
医・歯学	人数(人)	1	9	1	2	9	7	0	1	1	0	8	1
	率(%)	3.3	30.0	3.3	6.7	30.0	23.3	0.0	3.3	3.3	0.0	26.7	3.3
薬学	人数(人)	0	4	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	率(%)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家政	人数(人)	6	1	1	7	1	0	4	7	0	1	0	1
	率(%)	54.5	9.1	9.1	63.6	9.1	0.0	36.4	63.6	0.0	9.1	0.0	9.1
教育	人数(人)	54	5	7	36	45	5	14	42	7	1	1	2
	率(%)	57.4	5.3	7.4	38.3	47.9	5.3	14.9	44.7	7.4	1.1	1.1	2.1
その他	人数(人)	156	37	62	174	42	15	117	190	76	23	13	5
	率(%)	37.4	8.9	14.9	41.7	10.1	3.6	28.1	45.6	18.2	5.5	3.1	1.2
計	人数(人)	884	336	299	1,167	347	158	657	1,112	294	95	45	29
	率(%)	38.0	14.4	12.8	50.1	14.9	6.8	28.2	47.8	12.6	4.1	1.9	1.2

(注) 回答者数は、第13-1表の「日本において就職希望」の回答者数

就職活動時の要望（第13-7表）としては、「留学生を対象とした就職に関する情報の充実」と回答したものが1,657人（70.9%）となっている。

第13-7表 就職活動時の要望（複数回答設問）

区分	留学生を対象とした就職に関する情報の充実	在留資格の変更手続きの簡素化、手続き期間の短縮化	在留資格の変更が認められるよう規制緩和	学校における留学生を対象とした就職説明会の充実	企業においてもっと留学生を対象とした就職説明会を開催してほしい	留学生を対象としたインターシップの充実	学校の留学生に対する就職相談窓口の充実	その他	不明	計
人数(人)	1,657	1,001	714	736	1,087	404	600	19	49	2,338
率(%)	70.9	42.8	30.5	31.5	46.5	17.3	25.7	0.8	2.1	100.0

(注) 回答者数は、第13-1表の「日本において就職希望」の回答者数

参考資料

平成17年度 私費外国人留学生生活実態調査

調 査 票

【あなたのことについてお尋ねします。】

Q 1. あなたの出身国はどこですか。(記述式)

【 】

Q 2. あなたの母語として、日常使用していた言葉は何ですか。(複数回答可)

1. 中国語
2. 韓国語
3. マレー語
4. 英語
5. タイ語
6. ベトナム語
7. インドネシア語
8. ベンガル語
9. シンハラ語
10. モンゴル語
11. ミャンマー語
12. ネパール語
13. ドイツ語
14. フランス語
15. フィリピン語
16. ロシア語
17. ヒンディー語
18. アラビア語
19. カンボジア語
20. その他の言語 具体的に\_\_\_\_\_

Q 3. 留学の目的は何ですか。(複数回答可。その際、重要なものから順に回答番号を並べて下さい。)

1. 学位を取得する
2. 教養を身につける
3. 就職に必要な進んだ技能や知識を身に付ける
4. 国際的な経験をつんで、国際的な人脈を作りたい
5. 国際的な考え方を身に付けたい
6. 良い環境で研究を行う
7. 外国語の能力を高めたい
8. 他文化に接する
9. その他 ( )

【日本に留学する前のことについてお尋ねします。】

Q 4. 日本を留学先として選んだ理由は何でしたか。(3つまで複数回答可)

1. 日本社会に興味があり、日本で生活したかったため
2. 日本の大学等の教育、研究が魅力的と思ったため
3. 地理的に近い
4. 興味ある専門分野があったため
5. 異文化に接したかったため
6. 日本語・日本文化を勉強したかったため
7. 日本と関連のある職業に就きたかったため
8. 奨学金を得られたため
9. 友人、知人、家族等に勧められたため
10. 大学間交流等により勧められたため
11. その他 ( )

Q 5. 日本に留学するまでに特に苦労したことは何でしたか。(3つまで複数回答可)

1. 情報の収集
2. 日本語学習
3. 留学先学校との事前連絡
4. 留学ビザ取得
5. 留学資金準備
6. 入学試験
7. その他 ( )

Q 6. 留学する前に、どのような方法で留学情報を入手しましたか。(3つまで複数回答可)

1. 日本留学フェア、教育展等に参加して
2. 入学を希望する学校に直接問い合わせして
3. 在外日本大使館等の在外公館に問い合わせして
4. 母国の政府教育機関に問い合わせして
5. 日本学生支援機構(JASSO)に問い合わせして
6. インターネットを利用して学校や日本学生支援機構(JASSO)のHPを検索して
7. その他の民間団体に問い合わせして
8. 日本の出版物を購入して
9. 母国の学校や教員に相談して
10. その他 ( )

【日本に来てから現在通っている学校に入学するまでのことについてお尋ねします。】

Q 7. 日本に来てから何年経ちますか。

1. 1年未満
2. 1年～2年未満
3. 2年～3年未満
4. 3年～4年未満
5. 4年～5年未満
6. 5年～6年未満
7. 6年以上

Q 8. 日本に来たあと、現在通っている大学・学校に入学するまでどんな活動をしていましたか。当てはまるものをすべて選んでください。(日本に来てからの活動を左から順番に回答。現在在学中の課程は記入しないこと。)

1. 現在通っている大学・学校にすぐ入学した
2. 日本語学校で勉強していた
3. 留学生別科で勉強していた
4. 大学の学部で勉強していた
5. 短期大学で勉強していた
6. 高等専門学校で勉強していた
7. 専修学校(専門課程)で勉強していた
8. 大学院で勉強していた
9. 働いていた
10. その他 ( )

【現在通っている学校などについてお尋ねします。】

Q 9. あなたの学校は次のどれですか。

1. 国立
2. 公立
3. 私立

Q10. 学校ではどの課程で学んでいますか。

1. 大学院博士課程・博士後期課程1年
2. 大学院博士課程・博士後期課程2年
3. 大学院博士課程・博士後期課程3年
4. 大学院博士課程・博士後期課程4年以上
5. 大学院修士課程・博士前期課程1年
6. 大学院修士課程・博士前期課程2年
7. 大学院修士課程・博士前期課程3年以上
8. 大学院レベルの研究生
9. 学部正規課程1年
10. 学部正規課程2年
11. 学部正規課程3年
12. 学部正規課程4年
13. 学部正規課程5年以上
14. 学部レベルの研究生・聴講生
15. 短期大学1年
16. 短期大学2年
17. 短期大学3年以上
18. 専修学校（専門課程）1年
19. 専修学校（専門課程）2年
20. 専修学校（専門課程）3年以上
21. その他（ ）

Q11. 在籍する学校における専攻分野は何ですか。

1. 人文科学
2. 社会科学
3. 理学
4. 工学
5. 農学
6. 医・歯学
7. 薬学
8. 家政
9. 教育
10. その他（ ）

Q12. 1週間当たりの勉強時間を教えてください（学校での授業時間を除く）。

1. 7時間未満
2. 7～14時間未満
3. 14～21時間未満
4. 21～28時間未満
5. 28～35時間未満
6. 35～42時間未満
7. 42～49時間未満
8. 49時間以上

Q13. 現在住んでいるところから、在籍する学校までの所要通学時間（片道）はどのくらいですか。

1. 30分以内
2. 1時間以内
3. 1時間30分以内
4. 2時間以内
5. 2時間以上

Q14. 学校の授業料等の保証人を求められましたか。

1. はい
2. いいえ

Q15. Q14で「はい」と答えた人は、以下の質問に答えてください。

学校の授業料等の保証人は誰ですか。

1. 大学・学校等（代表者）
2. 大学・学校の指導教員
3. 国際交流団体（代表者）
4. 日本人の知人
5. 日本人以外の知人
6. 親族
7. その他（ ）

【日本への印象などについてお尋ねします。】

Q16. 日本に留学してから、日本に対する印象は良くなりましたか。

1. 良くなった
2. 悪くなった
3. どちらともいえない



Q21. Q20で奨学金の学習奨励費（日本学生支援機構奨学金）を受けていると答えた人は、以下の質問に教えてください。

(1) 学習奨励費の給付に対して今後望むことは何ですか。（複数回答可）

1. 給付金額の増額
2. 受給者数の増加
3. 海外で奨学金予約ができるように予約者数を増やして欲しい
4. 支給期間を1年間から延ばしてほしい
5. 母国において、学習奨励費の情報が少なかったため、もっと情報提供して欲しい
6. 学校内での選考について、もっと情報提供してほしい
7. その他（ ）

(2) 学習奨励費を受けて良かったことは何ですか。（複数回答可）

1. 日常生活に不安がなくなり、勉強に集中できた
2. 成績が良くなれば、学習奨励費を受けられると思励みになった
3. 宿舎を探すのにも奨学金があると有利だった
4. 奨学金があるので学校のクラブ活動等に参加できるようになった
5. その他（ ）

Q22. 一ヶ月の平均的な支出はどれくらいですか。それぞれの項目について  の中に金額を記入してください。なお、回答欄には  に該当する数字だけ記入してください。

(1) 学習研究費

- |                              |                        |         |
|------------------------------|------------------------|---------|
| A. 授業料（一ヶ月分の金額）              | 約 <input type="text"/> | ,000円/月 |
| B. 教科書、実習材料、文具等の経費（授業料以外の経費） | 約 <input type="text"/> | ,000円/月 |
| C. サークル活動の会費、合宿費             | 約 <input type="text"/> | ,000円/月 |

(2) 通学費（定期代等）

約 ,000円/月

(3) 食費

約 ,000円/月

(4) 住居費（一ヶ月の家賃、寮費など）

約 ,000円/月

(5) 電気、ガス、水道料金

約 ,000円/月

(6) 保険、医療費

約 ,000円/月

(7) 趣味、娯楽費

約 ,000円/月

(8) その他の日常的な経費（洋服代、電話料金、交通費等）

約 ,000円/月

(9) 残額

約 ,000円/月

計

約 ,000円/月



【住居についてお尋ねします。】

Q 2 5. 現在、どの地域に住んでいますか。

- |        |       |       |       |       |        |       |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 01.北海道 | 02.青森 | 03.岩手 | 04.宮城 | 05.秋田 | 06.山形  | 07.福島 | 08.茨城 |
| 09.栃木  | 10.群馬 | 11.埼玉 | 12.千葉 | 13.東京 | 14.神奈川 | 15.新潟 | 16.富山 |
| 17.石川  | 18.福井 | 19.山梨 | 20.長野 | 21.岐阜 | 22.静岡  | 23.愛知 | 24.三重 |
| 25.滋賀  | 26.京都 | 27.大阪 | 28.兵庫 | 29.奈良 | 30.和歌山 | 31.鳥取 | 32.島根 |
| 33.岡山  | 34.広島 | 35.山口 | 36.徳島 | 37.香川 | 38.愛媛  | 39.高知 | 40.福岡 |
| 41.佐賀  | 42.長崎 | 43.熊本 | 44.大分 | 45.宮崎 | 46.鹿児島 | 47.沖縄 |       |

Q 2 6. どのような宿舎に住んでいますか。

(1) どのような形態の宿舎に住んでいますか。

- |                  |                   |           |
|------------------|-------------------|-----------|
| 1. 民間アパート・マンション等 | 2. 大学・学校の留学生用宿舎   |           |
| 3. 大学・学校の一般学生寮   | 4. 県・市・財団法人の留学生宿舎 |           |
| 5. 公営住宅等の一般公的宿舎  | 6. 企業の社員寮         | 7. ホームステイ |
| 8. その他 ( )       |                   |           |

(2) 現在住んでいる部屋のうち、あなた個人が使用している面積はどの位の広さですか。

(キッチン・バス・トイレを除いてください。2人以上で住んでいる場合は、キッチン・バス・トイレを除いた部屋の広さを、住んでいる人の数で割ってください。たたみ1枚の広さは約1.6㎡です。)

- |                                 |                             |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1. 5㎡未満 (たたみ約3枚分)               | 2. 5㎡~7.5㎡未満 (たたみ約4枚~4.5枚分) |
| 3. 7.5㎡~10㎡未満 (たたみ約5枚~6枚分)      |                             |
| 4. 10㎡~12.5㎡未満 (たたみ約7枚~7.5枚分)   |                             |
| 5. 12.5㎡~15㎡未満 (たたみ約8枚~9枚分)     |                             |
| 6. 15㎡~17.5㎡未満 (たたみ約10枚~10.5枚分) |                             |
| 7. 17.5㎡~20㎡未満 (たたみ約11枚~12枚分)   |                             |
| 8. 20㎡~25㎡未満 (たたみ約13枚~15枚分)     |                             |
| 9. 25㎡以上 (たたみ約16枚分以上)           |                             |

(3) 現在住んでいる宿舎にキッチン、バス、シャワー、トイレはありますか。

A. キッチン

- |          |                 |       |
|----------|-----------------|-------|
| 1. 部屋にある | 2. 部屋にはないが共同である | 3. なし |
|----------|-----------------|-------|

B. バス・シャワー

- |          |                 |       |
|----------|-----------------|-------|
| 1. 部屋にある | 2. 部屋にはないが共同である | 3. なし |
|----------|-----------------|-------|

C. トイレ

- |          |                 |
|----------|-----------------|
| 1. 部屋にある | 2. 部屋にはないが共同である |
|----------|-----------------|

Q 2 7. <sup>ひとり</sup>一人で<sup>す</sup>住んでいますか。

1. はい                      2. いいえ

Q 2 8. Q 2 7で「いいえ」と<sup>こた</sup>答<sup>え</sup>た<sup>ひと</sup>人は、以下の<sup>い</sup>質<sup>か</sup>問<sup>しつもん</sup>に<sup>こた</sup>答<sup>え</sup>て<sup>くだ</sup>さ<sup>い</sup>。

(1)同居<sup>どうきょ</sup>している<sup>ひと</sup>人<sup>なんにん</sup>は何<sup>ほんにん</sup>人<sup>のぞ</sup>ですか (本人<sup>ほんにん</sup>を除<sup>のぞ</sup>く)。

1. 1人<sup>ひとり</sup>            2. 2人<sup>ふたり</sup>            3. 3人<sup>にん</sup>            4. 4人<sup>にん</sup>            5. 5人以上<sup>にんいじょう</sup>

(2)誰<sup>だれ</sup>と同居<sup>どうきょ</sup>していますか。

1. 配偶<sup>はいぐう</sup>者<sup>しや</sup>又<sup>また</sup>は<sup>かぞく</sup>家<sup>か</sup>族<sup>ぞく</sup>    2. 外国<sup>がいこく</sup>人<sup>じん</sup>留<sup>りゅう</sup>学<sup>がく</sup>生<sup>せい</sup>    3. 日本<sup>にほん</sup>人<sup>じん</sup>学<sup>がく</sup>生<sup>せい</sup>    4. その他<sup>た</sup>

Q 2 9. 現在<sup>げんざい</sup>の<sup>しゆくしや</sup>宿<sup>しゆく</sup>舎<sup>しや</sup>に入<sup>にゅう</sup>居<sup>きょ</sup>が<sup>き</sup>決<sup>き</sup>ま<sup>つ</sup>た<sup>とき</sup>、毎<sup>まい</sup>月<sup>つき</sup>の家<sup>や</sup>賃<sup>ちん</sup>と<sup>べつ</sup>は<sup>べつ</sup>別<sup>べつ</sup>に、い<sup>けいひ</sup>く<sup>ら</sup>経<sup>けい</sup>費<sup>ひ</sup> (敷<sup>しき</sup>金<sup>きん</sup>・礼<sup>れい</sup>金<sup>きん</sup>等<sup>など</sup>) が<sup>か</sup>か<sup>り</sup>ま<sup>し</sup>た<sup>か</sup>。

1. なし    2. 5万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>未<sup>み</sup>満<sup>まん</sup>    3. 5万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>～10万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>未<sup>み</sup>満<sup>まん</sup>  
4. 10万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>～20万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>未<sup>み</sup>満<sup>まん</sup>    5. 20万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>～30万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>未<sup>み</sup>満<sup>まん</sup>  
6. 30万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>～40万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>未<sup>み</sup>満<sup>まん</sup>    7. 40万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>～50万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>未<sup>み</sup>満<sup>まん</sup>    8. 50万<sup>まん</sup>円<sup>えん</sup>以上<sup>いじょう</sup>

Q 3 0. 宿<sup>しゆくしや</sup>舎<sup>しや</sup>の<sup>ほしやうにん</sup>保<sup>ほ</sup>証<sup>しやう</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>もと</sup>求<sup>もと</sup>め<sup>ら</sup>れ<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>か。

1. はい                      2. いいえ

Q 3 1. Q 3 0で「はい」と<sup>こた</sup>答<sup>え</sup>た<sup>ひと</sup>人は、以下の<sup>い</sup>質<sup>か</sup>問<sup>しつもん</sup>に<sup>こた</sup>答<sup>え</sup>て<sup>くだ</sup>さ<sup>い</sup>。

現在<sup>げんざい</sup>住<sup>す</sup>んで<sup>い</sup>る<sup>宿</sup>舎<sup>しゆくしや</sup>の<sup>ほしやうにん</sup>保<sup>ほ</sup>証<sup>しやう</sup>人<sup>にん</sup>は<sup>だれ</sup>誰<sup>だれ</sup>です<sup>か</sup>。

1. 大<sup>だい</sup>学<sup>がく</sup>・学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>等<sup>など</sup> (代<sup>だい</sup>表<sup>ひやうしや</sup>者<sup>しや</sup>)    2. 大<sup>だい</sup>学<sup>がく</sup>・学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>の<sup>しど</sup>指<sup>し</sup>導<sup>どう</sup>教<sup>きやう</sup>員<sup>いん</sup>    3. 国<sup>こく</sup>際<sup>さい</sup>交<sup>こう</sup>流<sup>りゅう</sup>団<sup>だん</sup>体<sup>たい</sup> (代<sup>だい</sup>表<sup>ひやうしや</sup>者<sup>しや</sup>)  
4. 日<sup>にほん</sup>本<sup>じん</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>ち</sup>知<sup>ち</sup>人<sup>じん</sup>    5. 日<sup>にほん</sup>本<sup>じん</sup>人<sup>にん</sup>以<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>の<sup>ち</sup>知<sup>ち</sup>人<sup>じん</sup>    6. 親<sup>しん</sup>族<sup>ぞく</sup>    7. その他<sup>た</sup> (            )

【健康<sup>けんこう</sup>についてお尋<sup>たず</sup>ね<sup>し</sup>ま<sup>す</sup>。】

Q 3 2. 学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>に<sup>にゅう</sup>入<sup>がく</sup>学<sup>がく</sup>して<sup>から</sup>病<sup>びやう</sup>気<sup>き</sup>や<sup>け</sup>が<sup>を</sup>した<sup>こと</sup>が<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>す<sup>か</sup>。ま<sup>た</sup>、<sup>そ</sup>の<sup>と</sup>き<sup>ど</sup>う<sup>し</sup>ま<sup>し</sup>た<sup>か</sup>。  
(複<sup>ふく</sup>数<sup>すう</sup>回<sup>かい</sup>答<sup>とう</sup>可<sup>か</sup>)

1. 病<sup>びやう</sup>気<sup>き</sup>や<sup>け</sup>が<sup>を</sup>した<sup>こと</sup>が<sup>な</sup>い    2. 学<sup>がく</sup>校<sup>こう</sup>の<sup>ほ</sup>保<sup>けん</sup>管<sup>かん</sup>理<sup>り</sup>セ<sup>ん</sup>タ<sup>ー</sup>や<sup>い</sup>医<sup>い</sup>務<sup>む</sup>室<sup>しつ</sup>に<sup>い</sup>行<sup>い</sup>っ<sup>た</sup>  
3. 病<sup>びやう</sup>院<sup>いん</sup>に<sup>い</sup>行<sup>い</sup>っ<sup>た</sup>    4. 薬<sup>や</sup>局<sup>きょく</sup>で<sup>くすり</sup>薬<sup>か</sup>を<sup>な</sup>買<sup>か</sup>っ<sup>て</sup>治<sup>な</sup>した  
5. 病<sup>びやう</sup>院<sup>いん</sup>に<sup>も</sup>薬<sup>や</sup>局<sup>きょく</sup>に<sup>も</sup>行<sup>い</sup>か<sup>な</sup>い<sup>で</sup>、<sup>か</sup>我<sup>が</sup>慢<sup>まん</sup>した  
6. その他<sup>た</sup> (            )

Q 3 3. 健康<sup>けんこう</sup>保<sup>ほ</sup>険<sup>けん</sup>についてお尋<sup>たず</sup>ね<sup>し</sup>ま<sup>す</sup>。

(1) 健康<sup>けんこう</sup>保<sup>ほ</sup>険<sup>けん</sup>に<sup>か</sup>加<sup>か</sup>入<sup>にゅう</sup>して<sup>い</sup>ま<sup>す</sup>か。

1. はい  
2. いいえ (Q 3 4に<sup>い</sup>進<sup>しん</sup>ん<sup>で</sup>く<sup>だ</sup>さ<sup>い</sup>)

(2) 前の質問で「はい」と答えた方にお尋ねします。その健康保険の種類は次のどれですか？  
(複数回答可)

1. (日本の) 国民健康保険
2. 海外旅行・留学保険
3. 親や、兄弟、配偶者などの家族が加入している健康保険
4. 所属する機関の健康保険
5. その他 ( )

(3) 1ヶ月に合計どのくらいの金額を払っていますか。(次はQ35に進んでください)

1. 無料
2. 500円未満
3. 500円～1,000円未満
4. 1,000円～1,500円未満
5. 1,500円～2,000円未満
6. 2,000円～2,500円未満
7. 2,500円～3,000円未満
8. 3,000円～3,500円未満
9. 3,500円以上

Q34. 健康保険に加入していない理由は次のうちどれですか。

1. 保険が必要だと思わない
2. 保険料が高すぎる
3. 国民健康保険への加入の仕方がわからない
4. その他 ( )

【卒業後の予定についてお尋ねします】

Q35. 現在在籍する学校の卒業後の予定はなんですか。

(複数回答可、左から希望順位の高い順に回答)

1. 日本において進学希望
2. 日本において就職希望
3. 出身国において進学希望
4. 出身国において就職希望
5. 日本・出身国以外の国において進学希望
6. 日本・出身国以外の国において就職希望
7. まだ決めていない

Q36. Q35で「2. 日本において就職希望」と答えた人は、次の質問に答えてください。

(1) どのような分野の企業に就職を希望していますか。(複数回答可)

1. 翻訳・通訳
2. 技術開発
3. 販売・営業
4. 海外業務
5. 学校などの教育
6. 調査研究
7. 経営・管理業務
8. 貿易業務
9. 情報処理
10. 設計
11. その他 ( )

(2) 日本での就職活動をする際に、どのようなことを望みますか。(複数回答可)

1. 留学生を対象とした就職に関する情報の充実
2. 在留資格の変更手続きの簡素化、手続き期間の短縮化
3. 在留資格の変更が認められるよう規制緩和
4. 学校における留学生を対象とした就職説明会の充実
5. 企業においてもっと留学生を対象とした就職説明会を開催してほしい
6. 留学生を対象としたインターンシップの充実
7. 学校の留学生に対する就職相談窓口の充実
8. その他 ( )

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。これからも健康に気をつけて頑張ってください。

平成17年度 私費外国人留学生生活実態調査

概 要

編集・発行 独立行政法人 日本学生支援機構

【問合せ先】

独立行政法人 日本学生支援機構 留学生事業部 留学生事業計画課

〒153-8503 東京都目黒区駒場 4-5-29

電 話 03-6407-7454

F A X 03-6407-7459

©2006年 <本書の一部または全部の無断複写、複製、転記等を禁じます。>